原爆

第41号
2024年7月

NON-VIOLENCE（国連本部）

高の原文化協会

【表紙について】

表紙の写真はニューヨークにある国連本部のビジター入口に入ると直ぐにある銃口が結ばれて使えなくなった拳銃「NON-Violence」のブロンズ像です。 1980 年 12 月 8 日射殺されたジョン・レノンの友人彫刻家カール・フレデリック・ロイデルスワルトが 1985 年に制作し、1988 年にルクセンブルグが国連に寄贈したものです。 国連の目的と理想を反映した「むすび目のついた拳銃（The knotted Gun)」は世界中の人々から平和と希望のシンボルとして大切にされています。

「剣を鋤の刃へ」という像が国連内に展示されています。 これは国連本部の反対側の公園にある「イザヤの壁」に刻まれたイザヤ書２章４節を像にしたものです：

They shall beat their swords into plowshares,
and their spears into pruning hooks;
nation shall not lift up sword against nation,
neither shall they learn war any more.

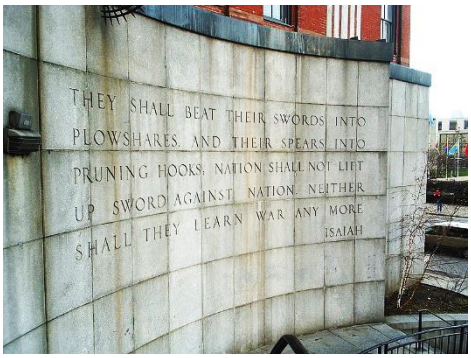
彼らは剣を打ち直して鋤とし、
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず、
もはや戦うことを学ばない。

剣を鋤の刃に

破壊の道具を人類の幸福に役立つ道具に変えたいという象徴の像が 1959 年ソ連から寄贈されたものです。皮肉なものです。世界の平和と平等と幸福を目的として設立された国連の趣旨を忘れている大国が国連を機能不全に陥らせ殺戮の世界に引きずり込んでいるように思えてなりません。平和と自由と平等を希求するばかりです。

文化は平和と自由と精神的豊かさのもとでしか育まれない事を思い起こさせるアートや展示物が沢山国連にあります。

（文・写真撮影　英語講座　佐川道夫）



イザヤの壁

平和の鐘

「平和の鐘」
1954 年 6 月日本国際連合協会評議員中川千代治氏が世界中の硬貨やメダルを鋳造して国連に寄贈したものです。毎年、春分の日と国際平和デーに世界平和を祈念して国連事務総長出席のもと鐘打式を行っています。

(川口 勇 書)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は,古代には 「層富」または 「曽布」「添」とも記され,「倭六県」(やまとのりくのあがた) の一つでありました。 出典は 『日本書記』 の神武即位前紀己未年の春 2 月壬辰朔辛亥 (20 日) の条にみえる 「層富県」によりました。題字もはじめ小さく, あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。
古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。
ご愛顧の程を。　　(網干善教)

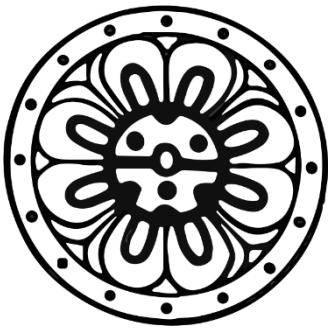
第41号 2024年7月

会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ,単純な円形にまとめ, 音如ヶ谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。 蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでいるようにも見えます。

(基本デザイン 筧　裕)

(構成デザイン 梶野 哲)



第41号【層富】目次

「層富」と「会章」の説明…… 1

「目次」……2

「巻頭言」　　高の原文化協会会長　日比野 豊……3

「４１号発行に寄せて」市民文化ホール所長　前多 奈美……4

「記念講演」 芭蕉書簡の謎　奈良大学名誉教授　永井 一彰……5

科学分析が解く真鍮の日本史
－むかし、真鍮は金に等しい価値があった－
奈良大学名誉教授　西山 要一……9

「グループ便り」…… 17

「短歌」…… 31

「俳句」…… 36

「寄稿文」 ハつぁんの亀とブラック・スワン　南 秀典…… 38

「第 41 回（2023年）文化祭」…… 46

「理事会議事録」…… 65

「第 41 回（2023 年度）総会報告」…… 67

「講座・同好会（２０２３年度）一覧表」・……75

「会則」……76

「編集後記」 ……80

【巻頭言】

高の原文化協会会長　　日比野　豊

高の原文化協会も創設から４２年が経過し、昨年平城ニュータウン地区が５０周年を迎えて、協会名も変更しました。３年前に日比野が会長職を辞任し、明政前会長を迎え今後を託せる有能な人事だったと思っていました。最低２期４年は会長職を遂行して頂けると思っていましたが、残念ながら一身上の都合で退任したいと言われました時は驚きました。しかしこの２年間の間にスマホとパソコンを楽しむ会、電子工作同好会、ウクレレを楽しむ会、太極拳と歩き方の同好会を立ち上げられ、会員減少の歯止めに大きく貢献されました。ありがとうございました。

再選挙の結果、またも古株が選ばれ人材不足が嘆かれます。しかし選ばれた限りは老体に鞭打って頑張りますのでよろしくご協力をお願いします。

世界中がコロナ感染対策に明け暮れた４年間が経過し、当文化協会も総会・記念講演会や秋の文化祭の式典・舞台上演等も今年から平常通り開催していきます。

春の総会・記念講演会は成功裏に終了し、今は２１の各講座・同好会が各地の会場で活発に活動されているものと思います。しかし文化協会会員の高齢化が進み、講座内容も少しずつ変革しています。地域の皆様と共に可能な限り活動できる範囲で、講座・同好会の開催は継続して頂くようお願いいたします。

高の原地区は奈良市民と京都市民が行きかう県境を越えた住宅地区です。文化協会は奈良地区だけでなく木津川地区、精華地区の方々も参加できます。まだまだ京都地域の方々の会員数が少なく、多くの方の入会を希望いたします。

高齢化は止めることは出来ませんが、脳の活性化は個人の努力次第です。人間は何もしなければ脳が衰退していくことは医学的証明されていますので、可能な限り少グループでも個別の文化的活動をして頂くことは（脳細胞運動・指先運動・口先運動等）健康的な年齢の若返りに一役買っていることは間違いありません。活動を通じて生きがいを持つことは長寿命への活力になります。

家族や近隣の人々と絆を深め、新しいものを作る喜びや、地域社会に出てボランティア活動や趣味を通じて地域に貢献する喜びなどいろいろあると思います。会員メンバー一人ひとりが文化協会を少しでもより良くしようとお友達を誘い、新会員を増やそうと思われればきっと新しい展開があると思います。会員皆様方のご協力とご支援をよろしく願います。

「 層富41号に寄せて 」

市民文化ホール所長 前多 奈美

層富４１号の発刊と高の原文化協会が創設４２年を迎えることに心よりお慶び申し上げます。

奈良市北部ホール（以下：当ホール）が２００４年に設立して以来、皆さまの温かいご支援により、おかげさまで２０年目の佳節を迎えます。

また、昨年度より奈良市社会福祉協議会（以下：本会）が当ホールの管理運営をはじめて２年目を迎えますが、本年４月に所長が代わり不慣れな点もあり、皆さまにはご不便ご迷惑を多々おかけしているかと存じます。

今後、さらに地域の皆さまにとって気軽に利用でき、親しみのあるホールの運営に努めてまいりますので、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

さて、ここ最近、物価の上昇や少子高齢化による担い手不足など、社会の状況が変化しており、文化施設の在り方についても変革の時期に来ております。

そのような中で、高の原文化協会の皆さまが昭和５８年の設立以来、高の原の地域において、４０年以上の長きにわたり文化活動に取り組まれており、地域の文化振興や交流活動に大きな役割を果たされていることに深く敬意を表します。

近年、地域や近隣とのつながりが希薄化し、孤立や８０５０問題、ひきこもりなど複雑化・多様化する福祉課題を世帯の中で抱えるケースが増えてきております。

このような状況も踏まえながら、これからの文化施設は地域や他機関と連携しながら、利用者にとって安心できる居場所になれるよう、人と人がつながる接着剤のような役割を果たしていくことが必要であると考えております。

当ホールにおいても、従来からの文化活動や教養の向上、健康の保持を図り福祉の増進を目指すという設立目的に、さらに本会が取り組む地域福祉の推進という基本理念を加えて、高の原文化祭をはじめ様々なイベントや会員の皆様のサークル活動を一緒に盛り上げていければと考えております。

最後に、高の原文化協会の更なる充実・発展と会員の皆さま方のご健康・ご活躍を祈念いたしまして層富４１号発行に寄せてのご挨拶とさせていただきます。

【記念講演】

（第41回平城ニュータウン文化協会総会　2023年5月14日）

芭蕉書簡のなぞ

奈良大学名誉教授 永井一彰

芭蕉は元禄７年10月１２日に大坂で漂泊の生涯を終えました。本日の講演では、この年の芭蕉の動静を辿りつつ、亡くなる半月ほど前に執筆した書簡をめぐるなぞについて考えてみたいと思います。

元禄七年の芭蕉

元禄７年５月２１日、芭蕉は少年次郎兵衛を伴い江戸を立って帰省の途に就きました。次郎兵衛は寿貞の子。寿貞は芭蕉の内妻とされてきましたが、最近の研究では寿貞は芭蕉の甥で元禄６年春に３３歳で早世した桃印の妻という新説もあります。５月２８日には伊賀上野着。閏５月１６日に伊賀から湖南へ出て、２２日には膳所から京へ向かいます。京滞在中に江戸在住の猪兵衛から寿貞死去の知らせを受け、６月８日付で返信、

寿貞無仕合もの、まさ・おふう同じく不仕合・・・何事も何事も夢まぼろしの世界・・・

と哀惜の情を陳述しました。なお、まさ・おふうも寿貞の子で次郎兵衛の妹達と見られます。芭蕉はその後、７月中旬に伊賀上野へ戻り、盆会に

尼寿貞が身まかりけると聞きて
数ならぬ身とな思ひそ玉祭

の追悼句を詠むことになります。「玉祭」は亡き人の魂を祀る盆の法会、「数ならぬ」は人の数に入らないような取るに足りない身の上、「な・・・そ」は禁止を表す言い方で、今日このようにあなたのことを偲び盆会を営んでいるのだから人の数に入らないような身の上であったなどとくれぐれも思ってくれるなよ、という意味です。

その後、芭蕉は９月８日に伊賀を発ち、奈良へ出て一宿することになります。この折に同行した門人支考の『笈日記』によれば、奈良で重陽の節句を迎えたいという芭蕉の意向があったようで、同書に支考はその夜の様子を次のように記しています。

さる沢のほとりに宿をさだむ・・・その夜はすぐれて月もあきらかに、鹿も声々にみだれてあはれなれば、月の三更なる比、かの池のほとりに吟行す
びいと啼尻声（なくしりごえ）かなし夜の鹿　翁

猿沢の池の辺に宿をとったというのですが、何所であるかは残念ながら具体的にはわかりません。８日の月ですから上弦の半月で、24時頃に沈みます。三更は一夜を五等分した第三の時刻で、秋であれば２２時から２４時半頃まで。芭蕉と支考が「池のほとりに吟行」したのはまだ月は明るく残っていた時間帯でした。「びい」は鹿の鳴声で、奈良公園周辺住民には珍しくもないのですが、「みい～」とも聞こえます。「尻声」は長くあとに引く声で、表記すれば「びい～～」という感じでしょうか。秋は鹿の恋の季節、連れ合いを求めて鳴く声が切迫感を帯びて、悲しげに聞こえることを詠んだのですね。「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿のこゑきく時ぞ秋はかなしき」（古今和歌集）に代表

されるように、古来秋の鹿の鳴声は哀愁をそそるものとして詩歌の世界で扱われて来て、江戸時代の人々は秋の夜にわざわざ山辺へ出かけ、「鹿聞」というイベントを催したりもしています。

さて、９月９日、奈良で重陽の節句を迎えた芭蕉は

菊の香や奈良には古き仏達

菊の香や奈良は幾代の男ぶり

という句を残し、くらがり峠越えで大坂に入ります。

このあと、没するまでに次の書簡を執筆しました。

９月 10 日付　杉風宛
９月 10 日付　去来宛
９月 17 日付　此筋・千川宛
９月 23 日付　松尾半左衛門宛
９月 23 日付　意専・土芳宛
９月 25 日付　正秀宛
９月 25 日付　曲翠宛

わずか半月ほどの間に７通、２日に一通という割合は結構精力的で、何れも亡くなる直前の芭蕉の動静を伝える貴重な資料となっていますが、このうち実兄である松尾半左衛門宛書簡を取り上げ、読み下しにしてみましょう。

彼是仕り、未だ書状を以って申し上げず候。愈御堅固に御座成され候哉、承りたく存じ候。頃日意専より便り御座候て、其元相替義御座無き旨は相伝えられ候。私南都に一宿、九日に大坂へ参着、道中に又右衛門かげにてさのみ苦労も仕らず、なぐさみがてらに参りつき申し候。大坂へ参候て、十日の晩よりふるい付申し、毎晩七つ時より夜五つまで、さむけ・熱・頭痛参り候て、もしはおこりに成り申すべきかと薬給候へば、廿日比よりすきとやみ申し候。其れに就き心むつかしく、早々御案内も申し上げず、漸かめや・はかたやへ今廿二日に見舞、折節京屋下られ候間啓上仕。いまだ逗留もしれ申さず候へ共、長逗留は無益之様に存じ奉り候間、二三日中にはせ・名張越にて参宮申すべくと存じ奉り候。相替事御座無く候へ共、御案内の為、此の如くに御座候。又右衛門方へ別帋に及ばず候間、慮外乍ら御心得遊ばされ下さるべく候。以上

九月廿三日　　桃青（書判）

松尾半左衛門様

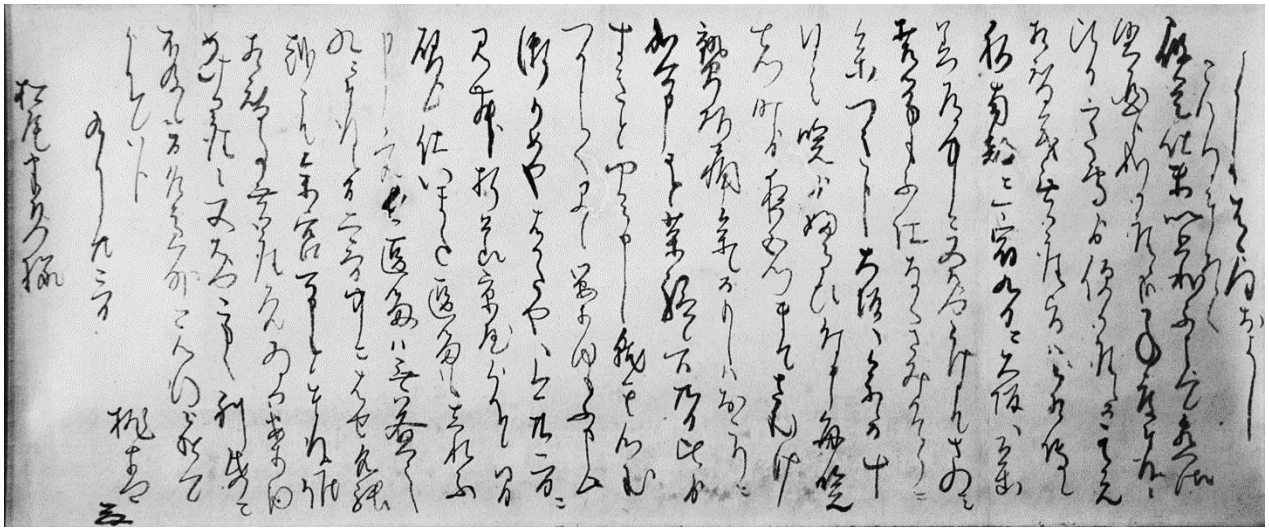
尚々　ばゞさま・およし、御心得頼み奉り候。

松尾半左衛門は芭蕉の実兄で、伊賀上野在。尚々書き（追伸）に見える「ばばさま」は半左衛門の妻、「およし」は芭蕉の末妹です。書簡四行目には先述の「南都に一宿」のことを報告。以下、大坂着後「十日の晩よりふるい付申し、毎晩七つ時より夜五つまで、さむけ・熱・頭痛参り候て」と悪寒・発熱・頭痛があったが、服薬後それも治まり、「二三日中にはせ（長谷）・名張越にて参宮申すべく」と伊勢参宮の予定を記しています。この時、芭蕉はこのまま大坂で果てることになるとはまったく思っていなかっ

たのですね。しかし、9 月 29 日夜から病臥。日を追って容態悪化し、10 月 8 日に詠んだ「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」の句を遺して、10 月 12 日申の刻（午後 4 時頃）に世を去りました。

芭蕉書簡のなぞ

さて、問題の松尾半左衛門宛書簡です。この書簡は天保頃に成立した『芭蕉翁真蹟拾遺』に収録され、早くから知られていましたが、『校本芭蕉全集・書翰篇』（昭和 39 年、角川書店）に京都某氏蔵としてやや不鮮明な写真を添えて真蹟が紹介、その後『芭蕉全図譜』（平成５年、岩波書店）に解説を添えて鮮明な図版が掲載され、現在に至っています。が、全く同じ書簡が私の手許にあります。これは、数年前に京都のオークションカタログに出たもので、私は『芭蕉全図譜』掲載書簡そのものだと思い込み、落札しました。ところが、届いてみるとそれとは別物だったのです。家蔵書簡の図版を挙げておきましょう。



『芭蕉全図譜』収録のものは同書によって御覧下さい。両点を見比べてみると、殆ど同じであることが分かります。同じような内容の書簡を同じ頃に別人宛に執筆するケースは考えられますが、同じ日に同じ人物宛に一字一句違わない書簡を執筆することは有り得ません。すると、どちらかが真蹟でどちらかが写しであるか、あるいは真蹟は別に存在しどちらも写しというように考えざるを得ないのですね。

これは芭蕉に限らず、著名人の筆跡類を見ているとしょっちゅう出くわす事例です。他の例を挙げて、みましょう。

A

B

試毫／あらたまる心を種や今日の春　　昭乗

染筆者の昭乗は、天正１２年堺の生れ。17 歳で石清水八幡宮男山に上り、出家。寛永４年、４４歳で滝本坊住職となり、のち隠栖して松花堂と号しました。寛永 14 年、56 歳で 没。寛永三筆の一人で、松花堂流の開祖。画家・茶人としても知られる江戸時代初期を代表する文化人として有名です。短冊Ａ・Ｂ、何れも家蔵。試毫は新年の書初めのことです。同じ句が全く同じように染筆してあり、芭蕉書簡同様有り得ないことです。著名人でかつ寛永の三筆の一人ということもあって、筆跡は珍重され求める人が多かったと容易に想像され、そこに「写す」という現象が発生します。

こういった真贋の見極めは実に難しく、最終的には筆勢とか紙質とかに拠らざるを得ないのですが、この芭蕉書簡の場合、一方が家蔵品であることが鑑定をさらに困難にします。つまり、私としてはなにがしかの対価を支払って入手した資料が真蹟ではないということを認めたくないという心理が強く働く訳です。この心理がある限り、私には真贋の判定は永遠に出来ません。京都の骨董店を回っていると店主から「欲が絡むと目が曇りますから」という話を聞いたりしますが、同じことは研究者にも言えるのですね。というわけで、今回は芭蕉書簡について真贋の判定は保留致しますが、芭蕉研究また文学研究というものは、かような問題も孕みつつ行われるものだということをお分かりいただければと思って、敢えて取り上げてみた次第です。

御清聴ありがとうございました。

（第 41 回高の原文化協会文化祭　2023 年 11 月 3 日）

科学分析が解く真鍮の日本史ーむかし、真鍮は金に等しい価値があったー

奈良大学名誉教授　西　山　要　一

日本の中世に真鍮は存在しない――遺跡の発掘で中世の地層から金属器が発見され、科学分析の結果それが真鍮であることがわかると、後世の遺物が混入したものとする。また、寺社に伝わる中世様式の金属製品でも真鍮製であるとわかると後世の模造品とする。――永遠に続くかに思われたこの学説は、今、崩れ、新しい真鍮の日本史が構築されつつあります。

1　真鍮とは

(1) 真鍮は現在最も身近な金属

真鍮（黄銅）は現代の私たちにとって最も身近な金属材料と言えます。日本では 5 円硬貨、錠前、家具の金具や装飾品も真鍮を材料としたものが多くあります。韓国の 10 ウオン硬貨、イタリア（EU）の 10、20、50 セント硬貨と 1 ユーロの外縁、2ユーロの中心部も真鍮を材料としています。

真鍮は英語ではブラス（Brass）といい、トランペットやホルンなどの材料で、ブラスバンド（吹奏楽団）は、材料である真鍮・ブラスから名付けられたものです。

日本の硬貨

韓国の硬貨

イタリア(EU)の硬貨

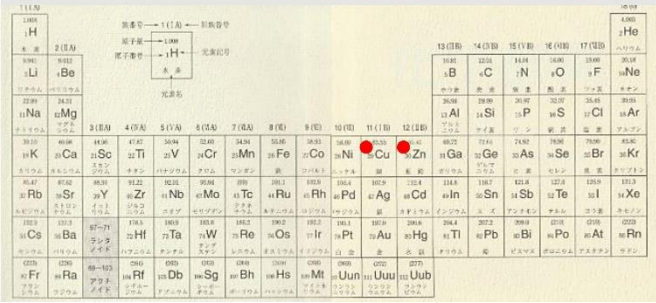
(2) 真鍮の製造

真鍮は銅（Cu）と亜鉛（Zn）の合金です。銅の原子番号は 29 番、亜鉛の原子番号は 30 番で、元素の周期表では隣り合わせ、質量も近似しています。

しかし、銅と亜鉛では溶ける温度＝融点が全く異なります。銅の融点は 1083.4℃、亜鉛の融点は 419.3℃また、沸騰して原子が飛び散る温度＝沸点も異なり、銅の沸点は 2567℃、亜鉛の沸点は 907℃です。

ですから、銅が溶融する 1083℃に達するころには、亜鉛は沸点をはるかに超え気体となって飛び散ってしまうのです。この困難を解決して真鍮の本格的な商業生産が始まるのは 18 世紀後半のこと、銅と亜鉛の合金方法が確立する産業革命を待たねばなりません。

元素の周期表



元素の融点と沸点

元素	t_{fus}/℃	t_{vap}/℃	元素	t_{fus}/℃	t_{vap}/℃
亜鉛	419.58*	903	タングステン	3387	5927
アルゴン	−189.2	−185.9	炭素（黒鉛）	>3500	4918
アルミニウム	660.4	2486	タンタル	2996	5425
アンチモン	630.7	1617	チタン	1675	3262
硫黄（斜方）	112.8	444.6	窒素	−209.86	−195.8
硫黄（単斜）	119	444.6	鉄	1535	2754
イットリウム	1495	2927	テルル	449.8	989.8
イリジウム	2457	4527	銅	1084.5	2580
インジウム	156.63	(2000)	トリウム	(1800)	(3000)
ウラン	1133	3887	ナトリウム	97.81	881
塩素	−101	−34.11	鉛	327.5	1750
オスミウム	2700	(5500)	ニッケル	1455	2731
カドミウム	321.1	764.3	ネオン	−248.67	−246.1
ガドリニウム	1312	(3000)	白金	1772	3827

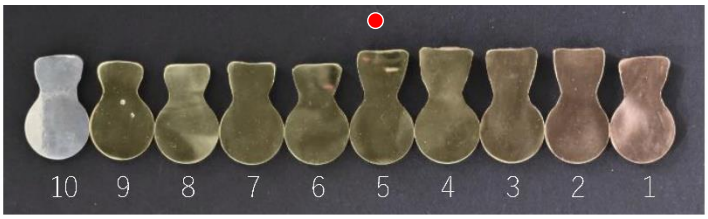
(3) 真鍮製作実験(坩堝と鋳型による鋳造)・真鍮の輝き

真鍮は金色に輝いています。発行されたばかりの五円玉は少し黄色っぽい金色、トランペットやトロンボーンは黄金色に輝いています。また、法隆寺献納宝物の仏具は、見た目は金銅製（銅と錫の合金で金色に輝いています）、平安時代の紺紙金字経の文字は見た目は金の字なのですが、科学分析の結果、両者ともに真鍮が材料のものもあることがわかりました。

朝鮮半島では三国時代・百済の６世紀の遺跡から真鍮を溶融した土製の坩堝（るつぼ）が発見され、日本でも 16 世紀になりますが真鍮の付着した坩堝が発見されています。これらを手掛かりに、土製の坩堝を使った銅と亜鉛の合金・真鍮の製作実験を行いました。銅と亜鉛の配合の比率を変えることにより、どのような色の真鍮が製作できるか試してみました。

この実験では、銅を坩堝に入れ 1000℃以上で溶融して亜鉛を加えると、たちまち亜鉛は白煙となって蒸発し、意図した比率の真鍮製作は難しいことを実感しました。白煙となって飛散する亜鉛は５～10%、銅との比では１～4%の減少です。この製作実験によると、銅と亜鉛の比が 80：20 の合金が最も金に近い色調であることがわかりました。現在の電気合金法では、銅と亜鉛の比が 70：30 の合金が最も金に近い色調とされています。

溶融した銅に亜鉛を加えると、亜鉛はたちまち白煙となって飛散する



実験資料の銅 ： 亜鉛合金比

1 100:0　2 95:5　3 90:10　4 85:15　● 5 80:20
6 75:25　7 70:30　8 65:35　9 60:40　10 0:100

		絶対値				金板との色差	
		L*	a*	b*	疑似カラー	⊿E*ab	⊿E00
鋳物 光沢面	1-A	82.91	15.81	22.47		19.68	12.68
	2-A	83.98	12.37	23.48		17.22	9.88
	3-A	84.71	9.30	26.17		13.83	6.86
	4-A	85.51	5.51	28.24		11.62	4.90
	● 5-A	86.65	3.60	29.39		10.74	4.61
	6-A	89.24	-0.36	28.09		13.52	6.14
	7-A	88.53	-1.31	30.80		12.07	5.87
	8-A	88.42	-0.58	29.83		12.29	5.75
	9-A	88.53	-1.26	30.54		12.22	5.91
	10-A	90.87	-1.54	0.09		40.14	22.60
金板		88.97	7.37	39.18		0.00	0.00

銅(Cu)と亜鉛(Zn)の合金比による色の違い

（現代の電気鋳造法による）

銅：亜鉛＝99～95：1～5　銅赤色から９金の黄金色

銅：亜鉛＝90：10　帯黄赤色

銅：亜鉛＝90：10　淡橙色

銅：亜鉛＝80：20　帯緑黄色

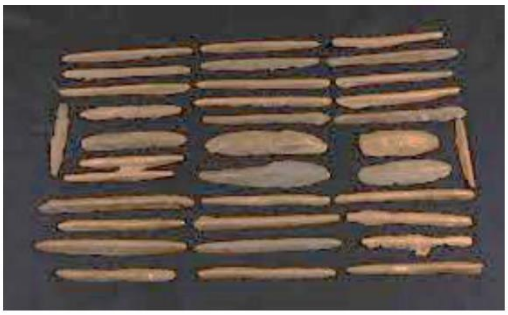
● 銅：亜鉛＝70：30　黄金色

銅：亜鉛＝70～50：30～50　黄金色から帯赤黄色

2 真鍮の歴史

紀元前８世紀アッシリアのブレスレットなど、紀元前４世紀のパキスタン・タキシラの真鍮製品、紀元前３世紀の中国・漢代の青銅器、紀元前１世紀のイタリア・ローマ時代のコインとその勢力圏下の各地の遺跡から真鍮製の装身具が数多く発見されています。しかし、これらは、銅と亜鉛の粉末や鉱石を混ぜて加熱するセメンテーションと呼ばれる方法で製作されものと考えられ、現在のような金属銅と金属亜鉛を合金にする方法ではありません。

(1) イタリア シチリア島・ジェーラ沖の沈没船と真鍮インゴットの発見



2014 年にジェーラ沖で発見された真鍮のインゴット

2014 年、イタリア・シチリア島の南岸の都市・ジェーラの海岸近くから３艘の船とアンフォラ（壷）とともに 39 点の金属棒がジェーラ考古クラブによって発見されました。調査の結果、沈没船は 2600 年前のギリシャ時代、金属棒は真鍮インゴット（およそ銅:亜鉛＝80:20）であることがわかりました。2017 年のシチリア海洋局の調査では 47 点の真鍮インゴットを発見し、併せて 86 点となりました。プラトンは「アトランティスの城壁や神殿に真鍮が使われていたとの記録がある」と述べています。ジェーラの真鍮インゴットの発見はアトランティス研究に一石を投じています。

真鍮ｲﾝｺﾞｯﾄの第一発見者・ｼﾞｪｰﾗ考古ｸﾗﾌﾞﾒﾝﾊﾞｰ　真鍮ｲﾝｺﾞｯﾄの現地調査（ｼﾞｪｰﾗ考古学博物館（中）とｼﾁﾘｱ海洋局（右））

1	長さ 31.5cm×幅 3.0cm、重さ 820g (SOP.MARE4218・S30)	Cu 82%	Zn 14%	Pb 1.7%	Cu/Zn＝85:15
2	長さ 31.7cm×幅 2.5cm、重さ 530g (SOP.MARE4215・S27)	Cu 75%	Zn 18%	Pb 6.4%	Cu/Zn＝81:19
3	長さ 17.2cm×幅 2.4cm、重さ 254g (SOP.MARE4204・S16)	Cu 80%	Zn 17%	Pb 3.7%	Cu/Zn＝82:18
4	長さ 28.8cm×幅 6.7cm、重さ 1307g(SOP.MARE4210・S22)	Cu 73%	Zn 20%	Pb 4.8%	Cu/Zn＝78:21
5	長さ 23.2cm×幅 4.3cm、重さ 305g (SOP.MARE4196・S08)	Cu 76%	Zn 21%	Pb 3.2%	Cu/Zn＝78:12

2018 年に現地・ジェーラに赴き調査した真鍮インゴット５点の大きさ・重量・合金比

ローマ皇帝時代の真鍮コイン
【左；ハドリアヌス（皇帝在位：117～138 年）を描く、中；銅：亜鉛=91:9、右；銅：亜鉛=83:17】

イタリア・ジェーラ発見の真鍮インゴット 86 点の銅と亜鉛の合金比は 80：20 前後で、品質が一定しています。このことは鉱石から精錬した銅と亜鉛を計画的に合金にしてインゴットを製造したことの可能性を示しています。このような技術があればこそ 2 世紀ローマの真鍮コインの大量製造が可能であったと思われます。

3 日本の真鍮製品

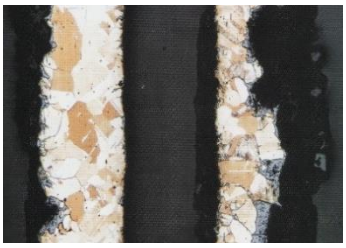
日本では、飛鳥時代の法隆寺献納宝物（東京国立博物館）、大阪・羽曳野市の野中寺跡発見の金属小片、奈良時代の正倉院宝物など古代の真鍮製品が知られています。これらは輸入製品と考えられています。

そして、中世を超えて江戸時代になると、名古屋城本丸御殿の扉金具、紀州徳川家藩主・徳川慶福の印をはじめ瓶子などの仏教法具、錠前などの金具、キセルなどの嗜好品、寛永通寶（波銭）など多種多様な真鍮製品が作られました。奈良町遺跡の鋳造工房跡から発見された坩堝・鋳型・鋳造品のバリなどの科学分析データや、京都・平安京左京三条四坊十町跡・烏丸御池遺跡の大規模真鍮工房遺構から発見された坩堝・鋳型・亜鉛インゴット・真鍮インゴット、そして長崎オランダ商館の記録の“トタン”（亜鉛）から、輸入亜鉛と日本産の銅を溶融して真鍮製品を製作していたことがわかります。すなわち、国産銅と輸入亜鉛をあわせ坩堝で溶融して真鍮を生産していたのです。国産銅と輸入亜鉛による真鍮製品の生産は明治 20 年ごろまで続きます。

（1）日本の古代の真鍮製品

① 大阪・野中寺遺跡出土金属製品（3.6×1.1cm）

西山分析 銅:亜鉛≒96:4



元　　素	板状片（0.1470g）
銅	76.80
亜　鉛	21.03
鉛	0.61
ス　ズ	0.42
ヒ　素	＜ 0.03
鉄	0.23
アンチモン	0.006

久野雄一郎氏分析(1988 年) 銅:亜鉛≒79:21

② 法隆寺献納宝物(鵲尾状柄香炉)

早川泰弘氏分析 銅:亜鉛≒80:20

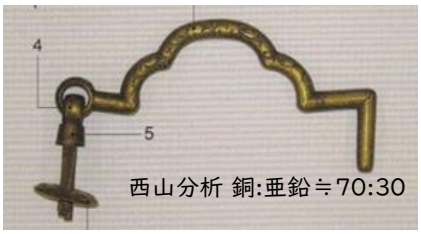
③ 正倉院宝物（黄銅柄香炉）

成瀬正和氏分析 銅:亜鉛≒75:25

（2）日本の近世・近代の真鍮製品

① 京都菱川城・刀子の柄(16 世紀)　　② 名古屋城本丸御殿・打掛金具（17 世紀）

宮崎真理氏分析 銅:亜鉛≒80:20



西山分析 銅:亜鉛≒70:30

③ 奈良町遺跡・坩堝と鋳型の内面に亜鉛が付着している（17 世紀）

三足形坩堝

カップ形坩堝

刀の鍔と目貫の鋳型

バリ（真鍮）
西山分析
銅：亜鉛=87:13

④ 京都・平安京左京三条四坊十町跡・烏丸御池遺跡(17 世紀)

樽形坩堝

カップ形坩堝

亜鉛インゴット（左上）と真鍮インゴット（その他）

亜鉛 96%　　銅：亜鉛=71~91:29~9

⑤ 和歌山城天守閣地鎮具(19 世紀)

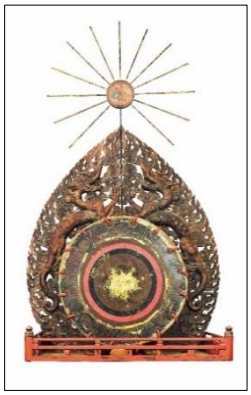
西山分析
←瓶子 I　Cu:Zn:Pb≒81:14:5
　　櫪 I　Cu:Zn:Pb≒95:2:3　→
↓輪宝 I　Cu:Zn:Pb≒91:3:6

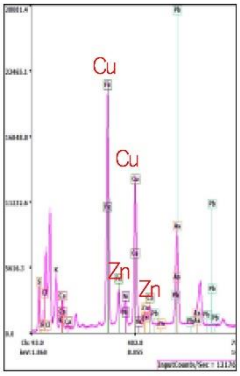
⑥ 徳川慶福獅子紐印(19 世紀)

荻山琴絵氏分析

Cu:Zn≒80:20

⑦ 春日大社鼉太鼓（左方巴紋）（19 世紀）





西山・関根俊一氏分析

1886 年の皮張替修理の際の巴文様の彩色（真鍮箔）
Cu:Zn≒85:15

4 平安時代～室町時代の真鍮の発見―中世の真鍮の空白を埋める

日本の古代と近世以降には、真鍮が存在していることは前項に述べてきた通りです。「日本の中世に真鍮は存在しない」との通説に疑問を持ったのは 1985 年のことでした。

（1） 寛治元年銘経筒 （平安時代・1087 年?）

知人が所蔵する経筒は高さ 29.1 ㎝、直径 11.4 ㎝の鋳造製で蓋は失われています、表面には陽鋳文字らしきものがありましたが錆で覆われていて鮮明ではありません。また、底の裏には複葉蓮華文が陽鋳されています。そこで展開 X 線透過写真撮影を行ったところ 4 行 43 字の銘が鮮明に映し出されました。銘文には「寛治元年」（1087 年）と記され、経塚が築造される初期の極めて珍しいもので、しかも蛍光 X 線分析を行ったところ銅と亜鉛が検出され、真鍮製であることも判明しました。

2022～23 年には新しい装置で蛍光 X 線分析、X 線 CT 撮影、放射性炭素 ^{14}C 年代測定などを行い、それらの結果をまとめて古代史、考古学、美術史、保存科学の研究者が集い検討会を開催しました。その結果、銘文に不可欠な経典名が記されていないこと、平安時代には不適合な字体であること、2 度にわたる年代測定はいずれも 15 世紀を示していることなどにより、真偽の結論は類例資料の発見を待つ事になりました。このような経緯はありましたが、本経筒は真鍮研究のきっかけになりました。

右奉加之志爲六道衆生成佛得道各道俗
男女所奉加如右
寛治元年丁卯八月五日
觀進 安常 鑄師 僧安度

（2）紺紙金字経の分析

2012 年に東野治之・奈良大学名誉教授の誘いで奈良大学図書館所蔵の『古写経遺影』『古写経聚英』に所載されている写経の断簡を分析する機会がありました。まず、分析したのは「二月堂焼経」で、紺紙に銀字で写経しているものです。文化財に携わる私たちは、銀はすぐに酸化し（錆び）易く、今も銀色を保つ「二月堂焼経」は銀の字ではなくプラチナで書いた字ではないかとの説があるほどです。この真偽を確認することでした。分析の結果は、間違いなく銀で書かれた字でした。千数百年を経てもなお銀色を保っているのは不思議でなりません。

さて、この際、同書に所載されている他の写経断簡も分析してみようとなり、次のページの美福門院得子願経（荒川経）を分析しました。分析を始めて 60 秒ほどでモニターに

表れたスペクトルを見て驚きました。予想では金のピークが現れるはずのか所ではなくその左側に高低差のある４本のピークが現れたのです。これらのピークが表す元素を特定していくと、なんと銅と亜鉛、つまり金字は真鍮だったのです。同じ経典の他の 10 文字を分析しましたが同様の結果でした。さらに、同書の他のページの紺紙金字経を分析すると、鎌倉時代、室町時代の経典の中にも真鍮の文字を見つけました。すなわち真鍮を粉末にして膠で溶いた真鍮泥で文字を書いているのです。

この分析結果は正確なのか、奈良大学の装置に特有のデータが現れたのかを確かめるために、東京文化財研究所と元興寺文化財研究所に資料を持参し、それぞれの所有する機器で分析を行ってもらいましたが同様に銅と亜鉛が検出され真鍮であることが確認されました。こうした慎重な作業を経て 2014 年２月に、研究成果を新聞社に公表しました。

各新聞社の記者にとっても驚きでもって受け取られ、翌日の紙面をカラー写真で飾ったことは言うまでもありません。私と東野先生は、日本の平安～室町時代に真鍮は存在しないといわれてきたが、実際には存在していたこと、当時、真鍮は金に等しい価値があったことを強調しましたが、紙上では「金の代わりに真鍮を使い材料費を節約していた」「金を使うはずの写経に真鍮を使って職人が利ざやを稼いだ」などの見出しで報じられました。現代人は真鍮の五円玉を連想し価値の低いものとするのでしょう。

この思いがけない分析結果から 12 年を経て、日本の真鍮の歴史が徐々に明らかになってきました。もはや「日本の中世に真鍮は存在しない」と言わせない！　その概要を年表で示します。

①　紺紙金字経（荒川経・平安時代）

←西山･東野分析

銅:亜鉛≒80:20

②　紺紙金字経（鎌倉時代）

←西山･東野分析

銅:亜鉛≒84:16

③　再建勧進状大永２年(1522・紀三井寺所蔵)

界線（金線）の分析

西山･清水・梨代氏分析

銅:亜鉛≒84:16

5 結語

真鍮の科学分析、史料研究、美術史研究、考古学の学際研究から明らかになった日本の真鍮史をまとめると下記のようになります。西アジア発祥といわれる真鍮がどのようなルートで日本にもたらされたのか、寺社などの記録には仏具・仏前具などの真鍮製品が存在しているとの記述がありますが、現状はどうなのか、真鍮製造技術の詳細など、明らかにせねばならない課題も多くあります。今後も多くの方たちの理解と協力をいただき研究を続けたいと思います。

（1） 日本の古代～中世には、真鍮製品を輸入していた。

（2） 古代～中世の真鍮は高価で貴重な輸入品で、金に等しい価値がありました。

（3） 平安～室町時代に紺紙金字経に使われる真鍮泥の素材は、真鍮インゴットの形で輸入し、粉砕・加工して真鍮泥として使っていました。

（4） 江戸時代には、輸入した亜鉛インゴットと、国産の銅を合金にして真鍮製品を作っていました。

（5） 国産の銅と亜鉛を使用して真鍮製品を製造するのは明治 20 年ころ以後のことです。

新安沈没船・「黄銅錠」

至治三年(1323)頃

兪惠仙氏（韓国国立中央博物館）
分析 銅:亜鉛≒83: 17
韓国・木浦の新安沖に沈没した日本に向かっていた中国貿易船から発見された。紺紙金字経の真鍮泥の素材は、このような輸入インゴットを粉砕加工し使用したのでしょう。

真鍮の日本史・世界史

（時代）	（遺跡名等）	（資料名）
飛鳥（7 世紀）	法隆寺献納宝物	瓶鎮柄香炉・塔わん
	野中寺遺跡	飾金具
奈良（8 世紀）	正倉院宝物	黄銅柄香炉・紫檀螺鈿五弦琵琶
平安～鎌倉	長原遺跡	金属製品
平安（？）	経筒（個人蔵）	寛治元年銘経筒
平安	紺紙金字経	「美福門院得子願経」
	紺紙金字経	「国宝 慈光寺経」など
鎌倉	紺紙金字経	
（13 世紀）	元寇沈没船	匙など
（14 世紀）	新安沈没船	黄銅錠（真鍮インゴット）
安土桃山(16 世紀)	大友府内遺跡	刀子柄・杓子・薬匙・錠前など
	千提寺	メダイなど
（16 世紀）	菱川城	刀子柄
江戸（17 世紀）	奈良町遺跡	坩堝・鋳型など
	平安京遺跡	坩堝・鋳型・亜鉛と真鍮ｲﾝｺﾞｯﾄ
	名古屋城本丸御殿	扉金具
（19 世紀）	和歌山城	徳川家獅子紐印、天守閣地鎮具
明治(19 世紀)	春日大社	鼉太鼓

（世界では）

紀元前 1000 年　トルコポントスで真鍮発明
紀元前 600 年　イタリアジェーラの真鍮インゴット
紀元前後　ローマ帝国で真鍮コインを製造
4 世紀　中国・晋『拾遺記』に「後趙の石虎が殿浴池の堤岸に鍮石を用いる」
5 世紀　中国『魏書』に「ペルシャに鍮石を産す」
7 世紀　玄奘『大唐西域記』に「ペルシャに鍮石を産す」
8 世紀　慧琳『一切経音義』「鍮石は金の類なり。銅精し金に次ぎ上好と相類す。外国に出なり」
11 世紀　中国で、炉甘石（亜鉛鉱石）＋銅＋木炭を加熱し真鍮をつくる
15 世紀　『朝鮮王朝実録』世宗 5 年（1423 年）炉甘石（亜鉛＋生銅＝真鍮）
17 世紀　『天工開物』（1637 年）「升煉倭鉛（亜鉛精錬）」
18 世紀　イギリス産業革命　金属亜鉛の精錬・真鍮生産が劇的に広がる

※ 古代・中世には真鍮は鍮石（ちゅうじゃく）、近代・現代には真鍮・黄銅と称されています。

グループ便り

「飛鳥学講座」との出会い

真中 芳美

会社勤めをしていた頃、私は古代史に詳しい職場の同僚から、「奈良には古い寺社や遺跡がたくさん在って良いですね。」と、よく声を掛けられました。そのような時、私は長岡京市に本社がある会社に勤務していたこともあり、

「僕は毎日、平城京を出発し、平安京を経由して長岡京まで通勤しているよ。」

と冗談混じりに返事していた事を覚えています。今、当時を振り返ってみますと、もう少し奈良の歴史を詳しく知っていれば同僚との対話も深まったのではないかと、悔いている次第です。

2017 年、永年の会社勤めを終えて暫く経った或る日、「平城ニュータウン文化協会」（当時の名称）のサークルに加入していた妻から、「『飛鳥学講座』と云う文化サークルがあるから、入ってみたら？」と勧められました。私は試しに一度聴講したのですが、その時、見せて頂いた教材のボリュームにびっくりした事を昨日のことのように、今も鮮明に覚えています。この講座は面白そうだと思い、年度の途中でしたが、早速入会させて頂きました。毎月一回開催される例会では、木下正史先生は、そのテーマは変わっても、「飛鳥の文化は、中国・朝鮮半島の文化を取り入れつつも、そのままの形で全て受け入れるのでは無く、当時の日本の国状に合わせて、選択的に受け入れ、日本独自の文化へ昇華していった」事を一貫して力説されています。

話は変わりますが、私などの世代は、50 年以上前の大学入試の際、「社会科」については、「日本史・世界史・地理」の三科目から一科目を選択して受験していました。しかし私は当時から日本史・世界史という縦割りの歴史教育に違和感を持っていました。会社勤めの晩年の頃から「幕末から明治期」の近代日本史に興味を持っているのですが、当然、日本と中国・朝鮮半島および欧米諸国との関係に 関心が及びました。自国の歴史や文化を理解する上で、諸外国との関係を意識しながら学ぶことは時代を問わず、不可欠な事だと木下先生のお話をお聴きし、改めて気付かされています。

私自身が興味を抱く近代日本史と照らし合わせながら、木下先生が長年研究を進めて来られた古代日本の話を毎月楽しく聴かせて頂いているのですが、加えてもう一つ、例会での楽しみがあります。新しい友人が出来た事です。月一回の例会では私も含め、会員の皆さんが着席される座席の位置は毎回ほぼ同じで、同好の者同士、自然と話が弾むようになりました。このように、あたかも十年来の 知己の様な新たな友人を得られた事は、会社勤めの時代には思いもよらなかった事で、この恵まれた環境に深く感謝している次第で す。

開催日時；第 1 水曜日 10:00～11:30
場所：北部会館 3 階多目的室 1

「源氏物語を読む会」

北崎 光一

大河ドラマ『光る君へ』は紫式部を主人公にして、当時の宮廷の様子をわかりやすく見せてくれます。

「源氏物語を読む会は」現在明石の巻を読んでいます。舩津喜美子先生と原文を音読して、解釈を聞くという形で進めています。日本古典文学の最高峰と認められている作品を声を出して読むのは、非常に楽しい事だと思います。

平安時代にタイムスリップして、歌の数々、物語の展開へのさりげない布石等も楽しんでみませんか！

開催日時；第１・３土曜日 10:00～11:30
場所：右京ふれあい会館 或いは
　　北福祉センター２階

国立国会図書館　NDL イメージバンク
館 48　早蕨　宇治の中君が二条院に移る準備

「英語講座」

松本 弘

私たちの英語講座は、初級と中級の二つに 分かれていますが、その差はあまりありません。初級では、たとえば、最近の話題や「空港でのアナウンス、あれは何と言っているんだろう？」「佐々木麟太郎って、どんな人だろう？」などと言った英語で書かれた内容や記事をプリントアウトして、その英文を聴き、音読して理解しています。

それから、中学生の英語の教科書を使い、それを聞き取り勉強する。簡単なところもあれば、そうでないところも。こんな事を中学生は勉強しているのかと興味をそそるところもあります。

そのほか、英語の歌があります。私はこの英語の歌が苦手で、何を歌っているのか、どこを歌っているのか、英語がさっぱりわかりません。歌いやすい所だけ大きな声を出して、分からないところは皆さんの声を聞いています。しかし、散歩をしていると、何となく口ずさんでいる時もあります。

そして、中級について。ちょうど１年前から森田先生に教えて頂いています。

先生は、40 年ほどインドネシアに滞在され、その間 30 年ほどは、大学で英語で日本や日本語について教えておられました。気が優しくて、思いやりのある女先生です。

いろいろな教材を使っていますが、印象深かったのは、アグネス・チャンが書いた「スペイン・バスクの旅」の英文です。彼女がバスク地方を訪れた時に、「バスク地方の人々の生活には、ゆったりとした空気が流れ、人々はやさしく、町を歩いていれば微笑みかけて来る。」ということでした。われわれ日本人の生活は、能率的で時間に合わせてきちっと動きますが、周りの人たちに対し、やさしさやゆとりに欠けるところもあるように思います。彼らは、家族や友人を大切に考え、自分たちの生活を意識的に楽しんでいるようにも感じました。

森田先生の最初の講座の中で、「英語は誰でも話せるようになります。毎日 10 分、10 年間英語を聞いて下さい。そうすれば、誰でも話せるようになります。」と言っていただきました。私はまだ 1 年。先生の教えに従おうと決意していますが、なかなか続かないものです。そんな時は、「10 年さえすれば、ペラペラになるんだ。」という気持ちにムチを打って、1 日 1 日続けようと思っています。

開催日時；第 2・4 月曜日 9:30～11:30

場所：右京ふれあい会館 （旧館）

「中国語同好会」

上畑 美佐

私と中国語学習との出会いは、学生時代に授業で外国語として履修したことがきっかけでした。思い起こせば、日中国交正常化の年に生まれ、パンダブームで湧く街のなかで、赤い服を着て、ラーメンを食べて過ごしていた幼少時代。いつでも身近には中国の存在があります。大人になるまで、そのことに気づかずに来ましたが中国語の学習を始めて、改めて、そのご縁を感じることとなりました。一時、中国語学習を中断したこともあったものの、「やはり私は、中国語が好きだ」と勉強を再開しました。毎回、講座へと向かう足取りは軽く、語学学習は、頭の体操にも、心の健康にも効くものだと実感しております。

中国語同好会では、木曜日の午前中に、初級と中級の二つの講座が開かれています。参加なされている方々は、それぞれ様々なきっかけで中国語学習を始められたことでしょう。 皆さんとても熱心で、毎回授業では、大きな声で音読に励み、歌やお話に花を咲かせ、笑顔あふれる講座になっています。

初級講座では、発音の上達のコツや YouTube を使っての授業など、毎回、先生が工夫をこらして授業を用意してくださいます。明るい雰囲気の講座で、皆さん仲良く、とても楽しい講座です。中国語をはじめて学習なさる方も大歓迎ですので、興味のある方は会長までご連絡ください。

中級講座では、長文問題を逐次訳するかたちで授業が進められます。時間の許すときには漢詩の学習もあります。大学のゼミを思い出すような、緊張感のある、しかし、ほがらかな授業に、日々の雑然とした出来事を忘れ、リラックスすることができます。

そのほかにも季節ごとにお花見などの行事もあります。

「中国語が好き」「中国語を話せる国や地域に行ってみたい」「日本で暮らす中国の方と交流してみたい」という方は、ぜひ講座へ足を運んでみてください。新しい出会いがきっとあなたを導いてくれると私は信じています。

ぜひ、これをご覧の皆様も、中国語に触れてみませんか？温かな春風が両国に吹き、春風とともに初夏へ向かって行くことを期待しつつ、今日の筆置きたいと思います。

【中国語同好会のご案内】
右京ふれあい会館において、第５週を除き毎週木曜日の午前中（初級コースは９時～10 時 30 分、中級コースは 10 時 45 分から 12 時）に開催されます。詳しくはホームページをご覧ください。
《https://heijyo-newtown-china.jimdofree.com/》

「俳句を楽しむ会」

守先光代

ご一緒に俳句を楽しみませんか。

この間も、写真が趣味であちこちへ行ってられる方が、美しい写真を切れの良い俳句にしてみたいと入会されました。思い出が一層膨らみ、羨ましい限りです。

私どもの「俳句を楽しむ会」は、毎月第４ 水曜日に北部会館で句会を行っています。各自持ち寄った３句をさかなに、みんなでワイワイガヤガヤ、とても気楽で楽しい会です。ご指導いただいている小谷廣子先生は、頭ごなしではなく「そうやなあ、こうした方が良いのと違う」といった感じで答えられ、次回に添削して返して下さいます。句会を重ねて季節ごとの季語を知るうちに、暮らしの中でも心豊になってくる気がします。

そして、私の一番の楽しみは吟行です。昨年は佐保川の桜を堪能し、今年は、万葉園、志賀直哉旧居に参り藤の花に感動しました。皆が同じ花を見て作句しても感じかたは千差万別で、あのような見方もあるのかな、このような表現の仕方もあるんだなと教えられ、感心し、一段と話も弾みます。

皆さま、「俳句を楽しむ会」はそんな和気あいあいとした気楽な会ですので、一度お遊びがてら覗いていただき、新風を吹き込んで下さいませ。

「短歌を楽しむ会」

中 紀子

父を亡くし憔悴している時、友から今の気持ちを短歌に詠んでみては？と声をかけれました。百人一首や国語で学んだだけの私にはとても難しく無理だと思いました。

何年かの時を経て、新聞の投稿歌やさまざまの歌集を読み始めるようになり、三十一文字の美しいリズムに魅かれました。短歌の題材はささやかな日常にあふれていることを知り、基礎から学びたいとカルチャーセンターに入りました。

先生は、大学の教授で投稿歌の選者でもあります。短歌は、個人の体験や感性を織り込むことも知りました。言葉選びに悩んだときは、類語辞典でいろいろな言葉を探すのも楽しいものです。十年余りご指導をうけましたが、急に教室が閉鎖となりました。

どこか学べるところはないかと思案していた矢先、高の原文化教室が身近に

あることを知り、早速訪ねたのが５年前の５月でした。

講師の櫟原先生は国文学者で、短歌結社『ヤママユ』の編集者でもあります。どんな短歌でも丁寧にやさしくご指導して下さり、毎月の歌会が楽しみでした。そんな先生はご多忙なお体で、昨年末お辞めになりました。みんな、とても残念な思いになりましたが、今は全員で批評を出しあい、和気あいあいと楽しく短歌を学んでいます。

お待ちしております。短歌を詠むことで日常生活にも何かと気づきが増え、豊かな彩りを加えられます。短歌サークルに参加して批評しあったり、新しい仲間をみつけたりするのも励みになります。ぜひ『短歌を楽しむ会』に足を運んでください。

夜半さめて見れば夜半さえしらじらと
桜散りおりとどまらざらむ
馬場 あき子

朴の木の芽吹きのしたにかそかなる
息するわれは春の山びと
前 登志夫

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と
答える人のいるあたたかさ
俵 万智

「わくわくニット」

松村幸子

「わくわくニット」でお世話になって３年目。メンバーの方々は、色々な作品を作っておられます。

初心者の私は、それを見ていいなあと思い作ってみたいのですが、なかなか思うようにはなりません。編んでいてわからないところは、親切丁寧に教えてくださるのでいろいろチャレンジすることができます。そして、全員で毎年１１月の文化祭に向けて、ベスト、セーター、小物などを作り上げています。

私は、かぎ針でビーズ入りのおしゃれな手袋を、何度も教えてもらいながら仕上げました。

奈良市、木津川市、精華町の方１７人で楽しく集まり編み物をしています。

毎月、第１木曜日、１時から３時まで、高の原駅東側の駅前団地集会所で、賑やかに楽しく編み物をしている私たちを訪ねてみてください。お待ちしています。

「絵画・絵手紙の会」

西村 絢子

絵画・絵手紙の会が発足して早や６年。最初に先生が言われた「ヘタで良い、ヘタが良い」を信条に、今まで描き続けています。

活動を始めたときは、絵の具が固形（顔彩）だという事も知りませんでした。青墨も初めて手にしました。

そんな初心者の私が今まで続けてこられたのは、絵手紙の書き方を、型にはめない、聞いたことには必ず答えて下さる先生の指導方針のおかげと思います。

そして一緒に活動しています仲間の雰囲気にも助けられています。

画題（モチーフ）にする草花や物品（小物）をお互いに貸し合ったり、描いている絵の良いところを見つけ合って、褒めてもらったりしたことも、続けられる大きな要因と言えます。

うまく形が取れない、色の表現がうまくできない、花を描くのが苦手などと、言い訳をつぶやきながら約２時間、月２回の絵手紙の稽古をしています。

だが、それが楽しい。下手なりに「よっしゃ」と思える絵が描けるときもあります。その時は鼻先をひくつかせ、捨てたものでも無いと、一人悦に陥っています。

絵手紙ですから必ず文も必要です。絵に会う文章を描きながら考えねばなりません。どんな言葉を入れようかと、色々と推敲しています。これがまた楽しいものです。

短い言葉でうまく「絵」と「文」がはまった時は、脳内でニヤニヤ笑いが止まらないものです。（夜郎自大の極みで、お恥ずかしい）ただ、字が汚いので書くことが苦痛なときもあります。

老化防止のため、手と頭を使う私の絵手紙生活はこれからも続くでしょう。

現在、会員数は９名程ですが、毎月第１、第３火曜日の午前９時半から１１時半まで北部会館２階第１会議室で活動中です。

ぜひ一度見学に来てください。歓迎いたします。

「料理を楽しむ会」

岡田 恵美子

毎日の献立に頭を悩ませる日々。家族の健康維持を意識しつつも、マンネリ化したメニュー。テーブルに並べた時、もう一品、違った何かが欲しいとの思いから、入会致しました。作る楽しみ、会話の楽しみ、何より皆さんの温かい人柄の中で仕上ってゆく料理は、いつも美味しく頂いております。

主婦歴長い方々の こなれた手さばきでトントンと教室内に響き渡る野菜の切る音は、何とも平和を感じずには、いられません。

見慣れた食材に一手間かけて、工夫の味付を施し格別の仕上がり。

「へぇー」と心で歓声を上げたら、口に運べば料亭の味!! こんな出合いも 楽しみのひとつ。歳と共に固くなった頭をときほぐし、なかなかレシピが覚えられない中。我を捨て班ごとに相談し、レシピに添って作り進んでゆく。先生の御努力、陰で支えて

下さる会の皆様に感謝しつつ、月１回の料理教室を今年も楽しみにしている私です。
皆さんの参加を お待ち致しております。

「パッチワーク研究会」

住吉 紀子

我が家のリビング・廊下・部屋に飾っている壁掛けキルトは、文化祭に出品したものです。雛人形・花のバスケット・夏の夜

の花火・散りゆく枯葉・クリスマス用キルト等で部屋を明るくしてくれています。

又、外出用にショルダーバッグ・手提げカバンを季節の服に合わせて、工夫しながら作るのは楽しいです。

毎年１２月は来年の干支のストラップを、打田先生に材料等をセットして頂き、作っています。

綿の入れ方によって太ったもの、細いものと色々個性が出て、どれもみな可愛いですよ。北部会館２階 福祉センターで 第２・第４の金曜日 １時～４時まで行っています。

興味のある方は是非、一度お越し下さい。お待ちしております。

「歌声サロン」

今津 京子

私が歌声サロンと出会ったのは、昨年の９月でした。その前年に高の原文化協会の「俳句を楽しむ会」に入会していました夫から、文化協会ニュースを見せて貰ったのがきっかけでした。

１ヶ月に一回集まって皆で歌を歌う「歌声サロン」は、どんな感じなのかしらと思いました。すぐに世話役様に体験を申し込みましたら、親切に対応して下さいました。

９月、１０月の練習に参加した時には、１１月の発表会にも出たらとお誘いを頂き、入会したばかりでしたのに皆様と一緒に舞台に立つ事になりました。

３階ホールには、思ったより沢山の人が来て下さっていて、拍手をして頂いてちょっと恥ずかしく思ったりしました。

月一回の練習は、小島先生の演奏に合わせて、懐かしい歌、楽しい歌、そして知らない歌も皆んなで一緒に歌います。大きな声で歌うと、なぜか気分もスッキリして晴れやかに一日を過ごすことが出来ます。

今月(４月)は、新たに３人が入会されてお友達が増えました。これからも楽しく一緒に歌いたいです。

「押し花とプリザーブドフラワーを楽しむ会」

中岡 美幸

元々お花は大好きでした。

自分で植えて育てた花を押し花で残せたらいいなぁと、高の原文化協会「押し花とプリザーブドフラワーを楽しむ会」に入会させて頂き早 ６年、花を育てる事、その花を押し花にする事が、二重の楽しみになっています。

押花はとても奥深く、簡単ではありません。花びらの厚みがある花や水分の多い花には特別な押し方があります。 赤い花を押し花にすると、赤黒くなってしまう花もありますが、赤花処理という技法を使うと色鮮やかになります。花の組み立て方や他の花との組み合わせ、背景の色等で作品に様々な表情が生まれ、雰囲気が変わります。

そして、いろんな花をたくさん押しておくとデザインの可能性が、より広がります

四季折々の花で季節感を味わえるのも押し花の楽しいところです。

先生や教室の先輩達に指導やアドバイスを受けながら、作品が出来上がった時は毎回感激します。

作品展は高の原文化協会の文化祭と、朱雀コープふれあい広場「遊楽気」での年２回です。

先生や先輩達の作品を見て、いつも刺激とパワーを貰っています

まだまだ学ぶことがたくさんあります。

プリザーブドフラワーの日は年数回あり、私はこの日を楽しみしています。

先生があらかじめ準備をして下さっているので、お手本を見ながら一時間程度で完成します。 プリザーブドフラワーは生花のように枯れないのが嬉しいです。

いつも丁寧に明確にしてくださる先生、とても優しくアドバイスして下さる先輩たちとのお喋りも楽しみの一つになっています。

毎月第４水曜日、右京ふれあい会館で行っています。

楽しい時間を一緒に過ごしませんか？

ご興味を持たれた方は一度見学にお越しください。ご参加お待ちしています。

「折り紙を楽しむ会」

小山 敬子

折り紙は 日本の伝統文化で紙一枚で遊べる知的玩具‼とは知っていました。しかし、一人で折っていると『⁇』とつまずくことも多く挫折もしばしばありました。そんな時、文化協会に『折り紙を楽しむ会』があることを知り入会しました。

バラ、カーネーション、猫、白鳥、バッタ人形、辰、ポインセチア、狛犬、羽ばたく竜、鶴のおひな様、兜と季節にそった作品を提案していただいています。

会では、解らない所は丁寧に教えていただき、アレンジや付属品についても色々なアイデアをいただいています。 たとえばバラやバッタには和紙を使って趣のあるものにしたり干支の竜には色紙に貼ってそのまま飾ることが出来るようにするなどしました。 完成した時の達成感があります‼

そして、集中力、思考力のアップで老化防止が出来ています。

興味のある方、一緒に折ってみませんか‼

「ゆっくり歩こう会」

柳本 博文

２０１１年、平成２２年５月に第１回ゆっくり歩こう会が発足して、今年で １３年経ちました。令和６年４月で９５回、１１月で１００回を迎えます。 記念イベントを皆様と盛大に行いたいと考えています。

毎回先生にコースを考えてもらい、下見をして１０ｋｍ前後になるように設定し、皆様に完歩していただけることを旨としています。参加される方は９０代の方もおられ、和気あいあいとした雰囲気で楽しんで歩いてくださっています。

令和５年４月２日『大川の河畔を散策、桜と近代都市、大阪を再発見』大川の桜並木から大阪城の桜を満喫しました。絶景でした。

５月７日『木津川の畔と行基さんの足跡を巡る』近場でしたが行基さんの偉業を知ることができました。

６月４日『石切歴史散策』旧川澄家など、石切の歴史に触れることができました。

９月３日『奈良町の暗渠、卒川を散策する』昔は川であった所が暗渠になっていて橋の欄干のみがたくさん残っておりました。

１０月は雨で流れました。

１１月１９日『秋紅葉の京都駅周辺の天皇ゆかりのお寺を探訪する』東福寺の紅葉はお寺一面真っ赤に染まっていました。

令和６年１月２１日『御香宮神社、藤森神社、伏見稲荷大社の三社参り』明治天皇陵参拝に全員２３０段の階段を上り、三社参りをいたしました。

３月３日『堺 百舌鳥古墳群を何基発見できるか？探索する』世界遺産の仁徳天皇陵を皮切りに１７基の古墳を発見して歩きました。 ４月７日『秋篠川沿いから御嶽山大和本宮まで桜並木を歩く』秋篠川沿いの桜と御嶽山本宮の桜は満開の時を見ながら歩き、満喫しました。ゆっくり歩こう会は毎回２０名以上の参加があります。その日の体調に合わせて参加できる会です。一緒に歩きましょう。

「万葉書き方教室」

武山 完子

毎日雑用や野暮用に追われ、ゆっくり落ち着く時間が持てず、どうしたものかと、色々思案の日々を過ごしておりました。 年齢の事もあり早く何か決めなければ、後時間がない、と言う状況にもなり迷った挙げ

句、字を書く時間が好きだったこともあり、万葉書き方教室に通う事に致しました。

教室ではボールペン、サインペン、筆用のお手本を頂き、書きたいお手本を自分で選び練習し先生に添削して頂きます。

私の場合、書きクセが邪魔をしてお手本通りに綺麗に書けません。しかしペン、筆を持ち呼吸を整えると無心になり、ゆっくり落ち着い時間を過ごすことが出来ることに満足しています。

教室は右京ふれあい会館、毎月第４土曜日 13 時 30 分から 15 時です。

書くことに興味のある方は是非一度、足をお運び下さい。 お待ち致しております。

「スマホとパソコンを楽しむ会」

リーダー　明政文男

スマートフォン（以下スマホ）は、今や高齢者にとって必要不可欠な存在となりつつあります。当会は、今年でスタートしてから７年目を迎え、会員数は現在 18 名です。この７年間で、私たちはスマホやパソコンの基礎から応用まで、幅広い年齢層の方々に IT の知識を提供してきました。

近年、高齢者を中心にスマホの講座に参加される方が増えています。この傾向を受け、私たちはより多くの方々が学べるよう、講座の内容やスケジュールを工夫しています。例えば、初心者向けの基礎コースから、より高度な機能やアプリの活用法を学ぶ応用コースまで、幅広いプログラムを提供しています。これにより、初心者から上級者まで、全ての参加者が自分に合った学び方を見つけることができます。

IT を学ぶ効用については、高齢者にとって非常に大きなものがあります。例えば、スマホやパソコンを使って家族や友人とのコミュニケーションが取りやすくなり、孤独感の緩和につながることが挙げられます。さらに、インターネットを活用することで、趣味や興味のある情報を手軽に収集し、新しいことを学ぶことができます。これらの効果は、参加者の生活にポジティブな影響を与えています。

スマホとパソコンを楽しむ会の特徴は、初心者から上級者まで、幅広い年齢層の方々に対応していることです。４人の講師陣が、わかりやすく丁寧に教えることで、初心者の方でも安心して学ぶことができます。また、開催日は毎月第１・第３火曜日の午後１時から３時までで、右京ふれあい会館新館で開催しています。見学を随時受け付けていますので、巻末の講座一覧にある連絡先へお電話ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。よろしくお願いします。

「朗読を楽しむ会」

今回は「朗読を楽しむ会」の講師を務めて頂いています辻本典子先生に「朗読への思い」や、ご指導に当たって感じておられる事などについて、対談の形でお話

を伺いました。その概要をご紹介したいと思います。

朗読を始められたきっかけは何だったのですか？

『子育てが終わり、中年になった或る時期、何かしてみたい、という強い思いにかられました。その時、子供が小さかった頃、毎晩子供を寝かしつけるために本を読んだ頃の楽しい記憶がよみがえり、朗読を学ぼうと云う思いに至りました。』

どんなふうに勉強されたのですか？

『一語一語ハッキリと話をされるＮＨＫのアナウンサーの言葉に強く惹かれ、朗読教室に通うようになり、ボイストレーニングも学ぶようになりました。このような学びを五、六年続けました。その後、自分でも朗読教室を開いたり、ボランティアで朗読に携わったりしました。』

朗読にはどんな効果があると思われますか？

『一番強く感じるのはボケ防止にとても効果があると云う事です。朗読は絶えず聞き手を意識しながら読むからです。また振り返ってみて、朗読を始めて私自身、とても元気になれたと思っています。』

朗読を楽しむ会については、どんな事を感じておられますか？

『例会は月一回なのに皆さん真面目に取り組んでおられるのに感心しています。自分の励みにもなり、とても楽しいひと時を過ごさせて頂いています。』

教材を選ぶ際に注意されている事はどんな事ですか？

『教材を選ぶときは、誰にでも届く作品、平易で素直な、そして共感を呼ぶ作品を選ぶよう、心がけています。』

最後に会員の皆さんへのご要望があればお聞かせ下さい。

『是非、長く朗読を続けて欲しいと思います。止めないで、細くてもいいので、続けて欲しいと思っています。コロナ禍の期間中でも例会を続けてきましたが、二年前から文化祭で発表の機会を持つ事が出来るようになりました。発表会に向けて皆さんが練習を重ねてこられた結果をみて、発表会と云う目標が有ると無いとではレベルアップにこんなに大きな違いが出るものかと改めて感心しました。
皆さんのこの努力された姿をみて、是非末永く朗読を続けて欲しいと願っています。』

本日はお忙しい中、貴重なお話をお聞かせ下さり、有難うございました。

対談者 真中礼子

起草者 真中芳美

「電子工作同好会」

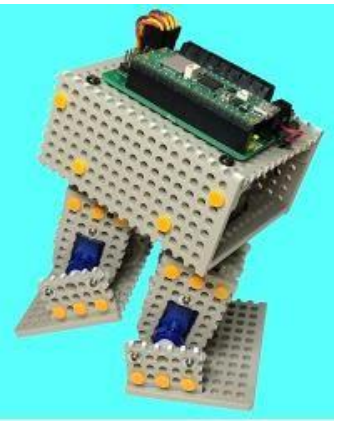
明政 文男

電子工作同好会へのご紹介です。この講座・サークル は、2022 年から始まり、早くも 3 年目を迎えました。会員数は 7 名で、皆さんの元気な姿が同好会に活気を与えています。

電子工作とは、電子部品を使って趣味の作品や便利なものを作る楽しい活動で

す。皆さんは、様々な電子部品の動きや、それらを動かすための簡単なプログラミングを学んでいます。例えば、ラジコンカーやスマートホームスピーカーなど、興味深いものを作ることができますよ。

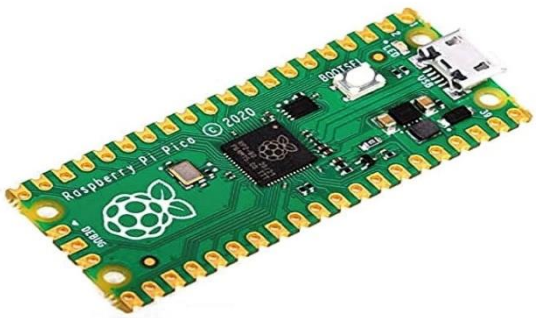
今年の秋の文化祭では、私たちの大きなプロジェクトの一つである２足歩行ロボットを展示する予定です。そのロボットは、私たちが一緒に取り組んでいる素晴



らしいチームワークの成果を見せられると期待しています。

電子工作は、小学校の夏休みの工作を思い出すような楽しい活動です。男性だけでなく、女性の皆さんも参加できますので、どなたでも歓迎です。

毎月第４火曜日の午後１時から２時間ほど、北部会館北福祉センターで開催しています。私たちと一緒に、楽しい時間を過ごしましょう！



写真は電子工作の中心となるマイコンボードです。

「ウクレレを楽しむ会」

中野 結子

８０才の節目に、何か新しいことに挑戦してみようと思いウクレレを始めました。もう８０才だから無理かも、いや、まだ８０才だから出来るかも知れないと心は揺れましたが、５０才、６０才，７０才の節目にも、その都度何かしらチャレンジしてきたので、今回も、先ずはこの際やってみようと「為せばなる、為さねばならぬ何事も」と自分に言い聞かせて、周りの人には

「ウクレレ始めまーす」と宣言。今さら後に引けず前進あるのみ。回転不足の脳を刺激しようと、かすむ目で楽譜を追い、ああでもない、こうでもないと試行錯誤を繰り返しているうちに、脳のどこかが目覚めた気配。いつの間にか弱気の虫が出て来なくなりました。

ウクレレは軽く、小さいので扱いやすく練習場所も取らず、音色は魅力的で音量も控えめで、楽譜は見易く良いことずくめです。

自己採点では、なかなか上手くならないと思っていましたが、一年経過して始めた頃と比べてみると、確かにそれなりに上手くなっていると実感出来てビックリ！始めるのに年齢は関係ない、ただ毎日の練習あるのみと教室で教わったことでした。確かに毎日の小さな積み重ねは大事だと、つくづく思いました。

何かしようと迷っておられる皆さん、高の原文化協会には心惹かれる魅力的な

講座がいっぱいあります。ダメでもともと、新しい世界に
一歩を踏み出しませんか、ご一緒にウクレレ始めましょう！８０才の手習いでもそれなりの結果は出ますヨ。お待ちしています。
一緒に始めませんか？

「太極拳と歩き方」

岡本 恵子

私が太極拳に出会ったのは 今から８年前。
骨粗鬆症と診断され、健康のためにジム通いを始めました。運動が苦手でも ゆっくりな動きならできるかぁ、とはじめてみた太極拳。習い始めて これが武術だということも初めて知りました。
太極拳を習っていくうちに、その楽しさ、奥深さに魅了され ジムだけでは物足りず 他にできるところはないのかな、と探しまわって７年前に「公園での太極拳」に巡り合いました。飛び込みで参加した私を、みなさん快く受け入れてくれました。
見よう見まねで動いてみるものの なかなか先生のような動きとどこかが違う。何でだろう～？と 自分なりに考えたり、岡 典子先生に質問したり・・・
先生はいつでも気さくに丁寧に質問に答えてくださいます。毎回、聞ける健康のワンポイントアドバイスも とても役に立ってます。
この教室は、平城二号公園で、土曜の朝７時半から始まります。ストレッチ、五防功、練功十八法、簡易二十四式太極拳を一時間行います。
風を感じ、鳥のさえずりや季節の花を見ながらする太極拳は とっても気持ちよく、心身ともにリフレッシュできます。
身体も心も整う感じを毎回、私は実感しています。
それまでは、土曜日だからと のんびりした朝を過ごしていました。太極拳から始まる朝だと １日が良い意味で長く充実したものになっているように思えます。

「新古文書に親しむ会」

柳本博文

令和５年５月の記念講演で『芭蕉書簡の謎』と題して、奈良大学名誉教授の永井一彰先生からお話を聴いて、石川先生の『古文書を読む会』の火を絶やさないためにも指導を引き受けて頂きたいと懇願し、『新古文書に親しむ会』を立ち上げました。

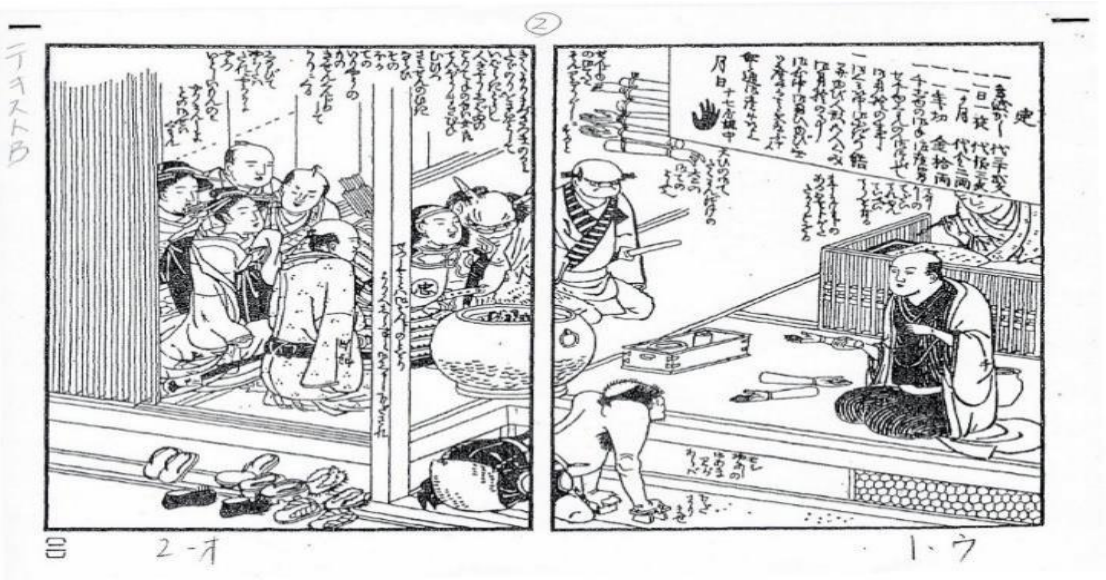
８月より発足致しました。初心者にも解りやすい教科書を選んで頂きました。テキストは大人向けの絵本（黄表紙）の版本を使用しています。会員が１ページずつ宿題形式で解読していく講座です。これまでに『千秋楽鼠之嫁入（せんしゅうらくねずみのよめいり）』『大悲千禄本（だいひのせんろっぽん）』を解読しました。

現在『賑式亭（にぎわしきてい）福（さいわい）ばなし』を解読中です。この作品は三馬が営んでいた薬店で売り出しの

際に配られた景物本です。永井先生からはテキストの時代背景や草紙の細部まで教えていただいて、とても楽しく、時間が経つのを忘れるほどです。

月２回（水曜日）北部会館２階、北福祉センターで行っています。受講生を随時募集しておりますので、ぜひご参加ください。

江戸の水



大悲千禄本

高の原文化協会に入会のご案内

講座・同好会等のグループに興味のある方は 75 ページの「2024 年度　講座・同好会一覧」に記載の該当講座・同好会の世話人、或いは、事務局（岡典子　携帯 090-4289-8140）にご連絡下さい。

年会費は1,500円、

初年度の年会費は入会月により

- 4~6月は1,500円
- 7~9月は1,000円
- 10~12月は500円
- １～3月は無料。

入会申込書

各講座・同好会の世話人、或いは、事務局にお問い合わせください。

年会費1,500円で複数の講座に参加できます。

【短歌】

滝雲

櫟原　聰

滝雲は南へ流れ尾根歩むわれらを照らす日を拝みたり

生徒らと登る常念燕岳（つばくろだけ）よ足動かざるわれとなりたり

動けざる生徒背負ひて登りたる大峰山も遠くなりたり

赤猪子（あかいこ）のごとく待ちゐて磐姫（いわのひめ）のごと怒りたり古代の女

人工のアンドロイドが活動し人間超ゆる日も近からむ

気（け）嵐や白鳥の飛ぶ湖にヤマトタケルの介護始まる

春日野にわれらあらしめ春の日も秋の日もなく熱波の日本

タタラの火やヤマタノオロチの赤き目かカガチか山に月のぼり来る

知盛の「見るべきほどのことは見つ」わが思ひとし記しおきたし

かくてわが古典を語るものとして家滅びたり父祖の地にして

日常　　岡　典子

昼食の四百円の菓子パンにゆとりをもらい当番果たす
住民の反対運動目の前に先島諸島にミサイル基地よ
くぐもった娘(こ)からの電話を受けとめてよくやっていると一言いえり
ご飯粒袋に入れてのり作り今でもシーツはパリパリが好き
金曜日今日の出物は何かなと心はずませ農協に向かう

こころ　　奥田　敦子

新しき年を迎へて手を合わす勢い数多龍よ鎮まれ
今暫(しば)しこのままでいたいファントムの仮面の下の涙を見たり
群衆の中に埋もれていようとも心の虚ろは満たされもせず
もみぢ葉の色付きよりも我は今新たな命を待ち焦がれなむ
一つずつ孫と通せしビーズ玉静けさの中時が過ぎ行く

能登人　　覚知　修三

不意に来る激しい揺れを訝(いぶか)しみハンドル強く握りて走る
男性の伸びたる髭の表情に途絶えし水の長きを思ふ
老人は半壊の家に戻るとふ避難所暮らしは休まらぬゆゑ
立春の光の中に思へらく能登人たちも浴びて居るかと
雪降れば雪　風吹けば風に思ふ能登人たちの避難所暮らし

余生　　近藤　好廣

ぬばたまの闇にひびけるカウントダウン零にかがよふツインクル城陽
白兎をば丸呑みせむとあばるるか龍よ今年は天にしづまれ
三途の川越へて地獄の湯攻めにも閻魔は不問と我を還しぬ
いつの世もどこかで戦のある地上人のこころはマグマのごとし
産むといふ苦しみの後の喜びを三つも持ちをり余生ひまなし

脱皮　阪上　元

昏れ残る頭塔の春やひっそりとユスリカの影ただよひにけり
きりぎしにうつぎの小花散り尽くし卯の花ロード夏を濃くする
「いつの間に脱皮したんや」七歳は精霊ばったを問ひ詰めてゐつ
古代の死者あまた眠れる布留の里ナイター灯(あか)りにその闇深む
彼岸花の鱗茎食みしと言ふもゐて戦時の子らの飢ゑのすざまじ

春つげ鳥　田中　みや子

早咲きの河津桜が凍て風に縮み上がりてひなの春来る
初鳴きを聞きていく日たつだろか山陵(みささぎ)あたりに春つげ鳥なく
イタリアも喘いでいるか裏町の壁に落書き物乞いの男(ひと)
初クワガタ枇杷にとりつくその体地球色に光りかがやく
しらじらと今年の桜咲き始めウクライナの民の涙雨ふくみて

さくら　さくら　玉置　小代

ワイン色の五年日記で年迎ふ希望の香する白きページに
花ぐもり咲きのこる桜(はな)も色美(は)しき葉ざくらまでの時を惜しまむ
子も孫も集ひてくれし夫の卒寿フィナーレに贈る「さくらさくら」を
八月尽「ドナウの旅人」読み終はるつひに黒海へたどりつきたり
家までの循環バスに深く座し旅人のごと秋陽たのしむ

日は過ぎゆきて　辻本　典子

うたなどと呼べぬ吾のつたなきを導きくれし師のありてこそ
突然に別れの刻はおとずれつ心の準備なきなるままに
今日も又シルバーカーを押しながらスーパーへ通うお洒落なあの人
芦雪の絵何故か惹かれて中之島ぬくもり有りてユーモア有りて
風邪引きの喉の痛みを和らげる母の教えしお酒の湿布

風の配達　　遠山 京子

どんぐりの木百本ありますお日さまののぼる山です 熊さんへかしこ
森に棲む緑の蚕いっぽんの糸光にのせて月の館へ
しかたないしかたないとつぶやきて明るい色の糸はこび編む
おみな子は軽き子宮を抱(いだ)きたりはやも散るらむさくらの夢みむ
そよりそよ猫のひげさきふるえます風の配達さくらさくらら

昼の半月　　中 紀子

秋の陽に気品あふるる白芙蓉ひと日のいのち静かにゆらす
退院して部屋の灯すべて点すとき書棚やソファー醒めてかがやく
ふり返りふり返りみて灯り消す夫の座しいしソファーの辺り
健やかな暮らしであれと床を拭く 家もわが身もいとしかりけり
小気味よき孤独というもあるならむほのかに白し昼の半月

花吹雪　　野村 明子

花吹雪一片(ひとひら)舞いて盃に飲みてほんのり桜色かな
短歌とは三十一文字(みそひともじ)の難しさ心を詠めば字余りになり
七回忌友を偲びてアルバムをゆっくりめくり写真と話す
能登地震家はあるのに地盤ずれ住めぬと友の℡に胸詰まる
東雲に両手合わせて目を閉じてきょう一日の事なき願う

ありがとう脚　　野村 道子

何となくいい事ありそなその朝は微笑みわきてワルツロづさむ
母偲び着ていた着物想い出す着物の柄は梅の花模様
歩く事歩けることが有難い歩かなければ歩けなくなる
塩まいて土俵の上を舞う力士勝負のあやは一瞬にして
脚無くし杖を頼りに歩いてる何度も何度も一・二、一・二

いつか来る道　松村　せつ子

のんびりとローカル線の旅したい青く煌めく海見たいから
去年まで夫のしていた庭仕事特訓受けて芝を刈り込む
二人して出来ない事の多くなり去年とちがう新年となる
冬ざれの荒野ゆくごと老いふたり時には欲しい希望の明り
「仲いいね」手を取り歩く老夫婦「いいえお互いに杖代わりです」

道南の春　宮本　郁江

芽出度さも中位なり年女地球にわびて菜花咲かせむ
発掘の破片はパズル緑褐白奈良三彩の壺蘇る
蕗の薹畑や道を縁どりて北海道中咲き上がりたり
五稜郭を高塔より見ゆ五角形の桜の苑に日本の粋有り
水芭蕉雪解けの沢のそこここに群れ咲き道南の春をつげをり

【俳句】

雀の子　小谷廣子

踏み竹の少しひんやり今朝の秋

はぐれ鹿直哉旧居の細き径

牛の尾のしきりに振つて野菊晴

冬ざれの杣道深き轍(わだち)かな

浅春の一燈ほのと伎藝天

寄生木の毬に睦めり雀の子

参道の松の高きに鳥の恋

永らへて若葉明りへ歎異抄(たんにしょう)

献氷祭

艶やかなむらさきにじみ花氷

法螺の音やからくれなゐの蟹走り

COPILOT(MS AI ソフト)作成の献氷祭での花氷柱

姫女苑　有岡　隆子

姫女苑(ひめじょおん)我が荒れ庭に盛りなり
干鰯何か言ひたき口の様
毬の内身体寄せ合ふ栗三つ
柘榴爆(は)ぜひと粒ごとに光りをり
佐保姫の姿映して川流る

七変化　足立博己

七変化そぼ降る雨の岩船寺
夜の秋スーパームーンと盃と
稲雀田畑を巡るワンチーム
街粧ふ木々の秋色写し合ふ
縁日の終弘法匆匆(そうそう)と

風薫る　今津　博

連翹(れんぎょう)の揺れて黄色の灯かな
風薫る朱く輝く大鳥居
咲き初めて明るさ競ふ石蕗の花
春着来て少しおとなし孫来る
壊れたる家屋そのまま日脚伸ぶ

姫小判　大谷　とし子

どんぐりの両手に余る幼かな
迷子犬届けし庭のこぼれ萩
去年今年逃げ惑ひけるガザの民
被災地や瓦礫累々冬ざるる
抜かず置く庭に生へたる姫小判

枯野道　相良　哲美

梅雨明けや三山の青きらめきぬ
矢継ぎ早に訃報四枚暮の秋
料峭(りょうしょう)や畔に農夫の咳払ひ
凍土に爪痕残す震度七
枯野道行きつ戻りつ喜寿に入る

初写経　杉田　敏江

墨をする音しんしんと初写経
夏帽をリュックの横に旅支度
コスモスの揺れて縺(もつ)れて又ゆれて
杉玉の緑新たな秋社
かがり火の照らす鵜の首細きかな

睡蓮　西脇 岑子

竹落葉朽ちし廃家の鬼瓦
睡蓮のポンと音して花開く
力作は笑ふ翔平案山子かな
本通りシャッター閉まり銀杏落つ
冬ざれて生け花だけの静寂かな

秋さやか　納塚 信水

秋さやか薬師三尊おはします
秋風や古仏めぐりの法隆寺
ぶらんこや乗る人もなき秋の暮
向日葵や小さき庭に咲きゐたり
大寒や無事故の免許返納す

窓灯り　松村 せつ子

薄紅の桃の甘きをたなごころ
いつまでも手許にありし秋扇
秋祭どの屋台にも人の列
晩秋の光集めて名残花
日脚伸ぶひとつふたつと窓灯り（あか）

立夏　松本義實

閉店の褪せし貼紙冬の雨
つれなくも落花急かせる古都の雨
手に掬ふ立夏の水のきらめける
あぢさゐや濡れて艶めく石畳
なら山を墨絵ぼかしに梅雨の月

墨を磨る　守先 光代

笙の音の澄みて斎女の月の舟
月下美人月の雫を宿しをり
祇園なれ追儺の鬼も一踊り
山笑ふまあ年やなと言ふ診立て
久々に墨磨つてをり星月夜

ジヴェルニーモネの庭園の睡蓮

【寄稿文】

ハつぁんの亀とブラック・スワン

南 秀典

●一万年目の亀の話

長屋の八公（以下、ハつぁん）は縁日で亀を買ってきた。ところが翌日、亀は死んでしまう。ハつぁん、長屋のご隠居をつかまえる。

「亀は万年生きるという話だったじゃねェか。どうして死んじまったんだい。」

ところが当のご隠居、問い詰められてもどこ吹く風。

「今日がちょうど一万年目だったということだ。」

落語の『鶴亀』という演目である。

●注射による神経損傷の確率は？

いつ頃からだろうか。病院で注射や手術を受ける前に同意書なるものにサインを求められるようになった。

こんなことが書いてある。「ごくまれに、注射のときの穿刺によって神経を傷つけてしまうことがあります。…（中略）…神経の障害は約１万～１０万回の穿刺に１回の頻度で起こるという報告があります。…」

皮膚の表層近くの神経の位置には個人差が大きく、神経損傷を１００％防止するのは不可能だという。

つまり、これは医療事故ではあるが、医師や看護師の注意力や技量の問題ではなく、ある確率で不可抗力的に発生するものだ、ということになる。

最近では、医療者はこういうことを施術前に十分説明し、患者は十分理解したうえで自由意思に基づいて同意するという建前になっている。インフォームドコンセントなどというものである。一見、患者に丁寧に（一部の政治家のように同じ説明を何度も反復する、という意味ではなく）お伺いを立てる体をとりつつ、巧妙に責任を回避しようとする。まことに慇懃無礼である。

それはともかく、１万回から１０万回に１回という確率、この意味を本当に理解して同意書にサインしている人はどれほどいるのだろうか。

大学の教壇から毎年学生に言っていることであるが、エンジニアの仕事は計算して答えを出すことではなく、出た数値を評価し、それをもとに行動することである。そのためには、数値の大小について実感をともなって理解できている必要がある。

●実感をともなった理解とは…

では、１万回から１０万回に１回というのはどれくらいの大きさだろうか。ある看護師が毎日 10 人に注射をしたとする。年間 250 日働くと、一年で、

250×10＝2,500 回

このペースで 25 歳から 65 歳まで 40 年間働き続けると、生涯で、

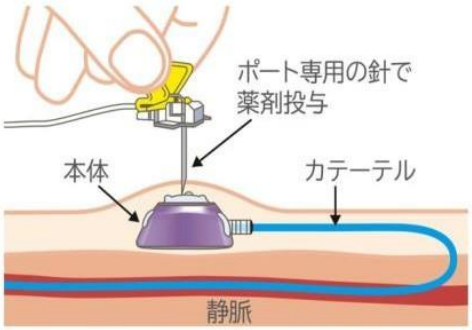
2,500×（65-25）＝100,000 回

の注射を行うことになる。神経損傷事故が１万～１０万回の穿刺に１回の割合で起こるとすると、この看護師は生涯に１回から数回、事故を起こしてしまうことになる。

（医師の友人によると、一時的に神経が損傷しても、二、三ヶ月で回復することが多く、長期化するケースは少ないそうである。）

ここまで、注射をする側から見てきたが、注射をされる人はする人よりもずっと多い。視点を逆転させて注射される側から見ると、一生に何万回も注射をしてもらう人はいないだろう。

私の母は昨年亡くなった。最後の半年ほどは口から食事がとれなくなり点滴に頼った。細い腕に注射をするのは見ていて可哀想だった。しかし、点滴を始めて半年ほどすると血管が固くなって注射針が刺せなくなった。その後は CV ポートという直径２～３ｃｍ大の円盤状のものを手術で胸に埋め込み、これを針山のようにして点滴の針を刺してもらうようになった。 結果的に血管に直接穿刺した回数は数千回だったと思われる。



出典： 大浜第一病院 CV ポートセンター リーフレット

●ゼロリスク にすがる人たち

注射で神経損傷すれば、「ちょうどこれが 10 万回目でした。」などという話では済まないだろう。そこで出てくるのが『ゼロリスク』というナンセンスな概念である。絶対にあってはならない。だから起きないことにしよう、となってしまう。

原発事故もそうであった。日本では原発は安全で絶対に事故は起きない、ということになってしまっていたため避難訓練の計画さえできなかった。政治家たちは国会で、『ゼロリスク』という言葉を繰り返した。新しいところでは小林製薬の健康被害問題でもこんな場面があった。紅麹への青カビ混入が原因かと疑われ始めた頃、同社の記者会見で某マスコミ記者は、

「（紅麹に青カビが混入する可能性は）ゼロではないのか？」と同社の責任者に迫っていた。

注射に話に戻すと、注射の回数を減らせば医療事故の確率は低くすることはできる。しかし、かりに一生に一回しか注射しない人でも確率はゼロにはならない。

ここが大事なポイントである。

●災難に遭う確率

予想外の災難のことを、「交通事故みたいなものだ」と言ったりするが、交通事故による死亡の確率を見てみたい。

致死リスクのレベル（平均、概算値）（回／年）	
10^{-2}	毎週末、5時間ずつロッククライミングをする場合の死亡リスク
10^{-3}	鉱業のような比較的危険な産業のうち、高いリスクグループで働くときの死亡リスク
10^{-4}	一般的な交通事故死のリスク
10^{-5}	産業のうちとても安全な部門で働くときの事故死亡リスク
10^{-6}	家庭での火事又はガス爆発で死亡する一般的リスク
10^{-7}	雷に打たれて死亡するリスク

出典：各国（日本、米国、英国、仏国）における確率論的リスク評価の活用状況（2015 経済産業省）

この表では、一人の人が交通事故で命を落とす確率は１年に約 10^{-4} 回（0.0001 回）である。

ピンと来にくいので逆数をとると、

1[回]÷0.0001[回/年]＝10,000[年]

敢えて誤解を恐れずに言うと、１ 万年に１回程度ということになる。

同様に、家庭での火事やガス爆発で命を落とす確率は、1 年におよそ 10^{-6} 回（0.000001 回）である。これは、

1[回]÷0.000001[回/ 年]
＝1,000,000[年]

100 万年に一回程度となる。

●一、二、たくさん

このように、0（絶対的安全）の次は 1（事故・災害）ではなく、その間にはたくさんの数値がある。

事故発生確率が 1 年に 0.001 回と 0.0001 回は 0.0009 回の違いであるが多くの人はこの違いを実感として理解できない。しかし、リスクのレベルは全然違う。

数を、「一、二、たくさん」と数える部族がいるという話がある。三以上を表現する数詞がないことで、数の認知能力の低さを揶揄する話としてよく引き合いに出される。

先ほどの国会議員やマスコミ記者の頭の中には、0 と 1 しかないようだ。これでは彼らも「一、二、たくさん」と数える部族と変わらない。

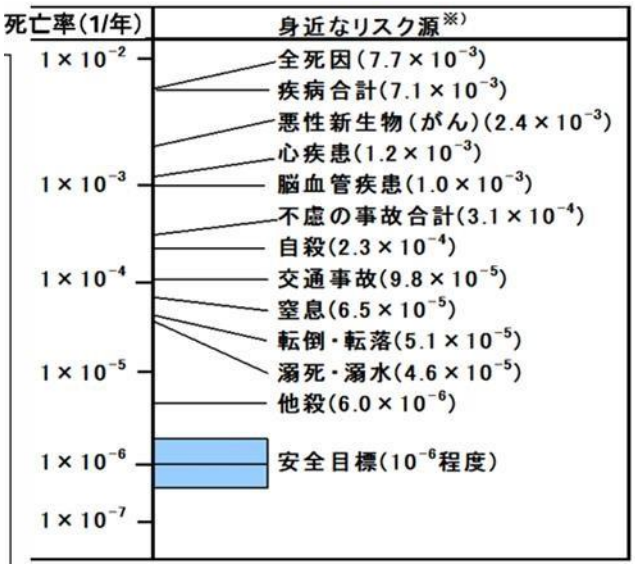
●化学プラントの事故発生確率

もし、あなたの自宅の近くに工場ができると聞けば危険を感じるだろう。私は化学会社に在籍していたので、世の中で危ないとされている例として化学プラントを取り上げてみたい。

一般的な化学プラントは、死亡事故の発生確率が 1 年に 10^{-3} 回以上（0.001 回以上、1000 年に 1 回以上）と予想されれば、『いかなる理由をもってしてもリスクを正当化することはできない』つまり、『そのプラントは立地できない』と判断される。

今から 1000 年前というと、話題の NHK 大河ドラマ『光る君へ』の時代。

紫式部がエチレンプラントの事故を見たか、くらいの発生頻度であるが、それではあまりに危険で社会に受容されないということである。もちろん、平安時代にエチレンプラントはない。産業革命が英国で起きて 300 年、それによって化学プラントが現在の姿になってまだ 100 年ほどでしかない。



出典： 人口動態統計（2001 厚生労働省）

一方で、事故発生確率が 10^{-6} 回以下になるとほとんどの人はリスクを気にしなくなるといわれている。

日本国内で台風や大雨などの自然災害で亡くなる人は毎年約 100 人という。

日本の人口が現在、約 1 億 3 千万人ということは、

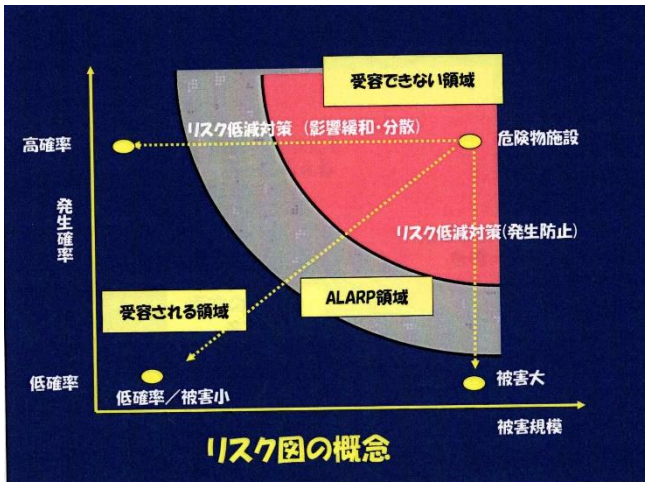
100÷130,000,000＝0.000001
（＝1/1,000,000）

およそ 100 万人に 1 人は何もしないでも命を落とすリスクがあるということになる。そして、それ以下のリスクは、多くは許容されるということである。

実際の設計ではリスク回避に必要な費用とプラントによって得られる便益のかねあいから、死亡事故の発生確率が 1 年あたり 10^{-4}～10^{-6} 回以下（1 万年～100 万年に 1 回以下）を目標として設計されることが多い。

※ここまでは話を単純にするため、事故発生確率だけに注目したが、実際の設計では、事故発生確率 P と、事故が発生したときの被害規模 C（死傷者数、経済

的損失、社会的損失など）を掛け合わせた積 PC の数値でリスク評価が行われる。下図のように、 PC 一定の線上のリスクの大きさは同等となる。化学プロセスの計画では PC の目標値を設定し、それ以下になるように設計を進める。



高木伸夫 化学プラントの安全確保の方策とリスクベースドアプローチ（2012/1/18 化学工学会セミナー）

●30 年確率

災害の発生確率を一年以内の確率で表すと非常に小さい数字になってしまって実感しにくい。最近、『30 年確率』という言葉が地震など自然災害の分野でよく使われている。いまから 30 年以内に一度でも発生しそうな確率という意味である。30 年というと、だいたい一人の人間が現役として社会と関わる年数である。これだと実感しやすい。面白い尺度をつくったものである。

●式年遷宮と技術伝承

伊勢神宮は 20 年に一度、社殿を改築する。いわゆる式年遷宮である。宮大工の高度な建築技術は実践なしに伝承していくのは難しい。20 年ごとであれば誰でも自分の代で一回は再建を経験できる。

建物の耐久性や宗教的意味もさることながら、技術伝承の観点からもよくできたシステムである。

技術伝承の問題は化学会社でも同様である。安全技術や生産技術の向上で化学プラントは昔と比べて発停が非常に少なくなった。連続操業のプラントなどは、いったん動き出すと数年間停止しない設備も珍しくない。これらは日常の運転中の操作は簡単であるが、立ち上げ、停止では高度で複雑な操作が求められ、経験していないと対応は難しい。ところが、滅多に停止しないので経験する機会自体が少ない。

●なぜ人は帰納法にシフトしていくのか

私は化学会社で主にプロセス設計の仕事をしてきた。 設計という仕事は、頭で考えたことを形状やサイズに落とし込む、という作業である。

エンジニアは、役割上、物事を定量化つまり数値化することが仕事なので、会社組織にあっては数値化に最も長けている者たちであろう。そのエンジニアでさえ、定量的理解の能力には疑問符を禁じ得ない。

物事へのアプローチ方法は大別すると論理から入る演繹法と経験をベースにした帰納法とに分類される。

化学会社にいた頃、会議で「そんな話は聞いたことがない。」という言葉をよく聞いた。自分が見聞きした範囲を基準に判断しているのである。こうしたアプローチ方法は帰納法といわれる。

若い頃は演繹法の人も、歳を取るとだんだん帰納法に宗旨替えする人が多いようだ。ある程度経験を積むと、たいていの事象が過去のパターンに類型化できるようになる。すると人は一から考えることをしなくなり、過去の経験に当てはめようとするようになる。歳をとると考えることが億劫になってくることも思考停止に拍車をかける。

ただ、最近は若いうちから帰納法にシフトする人が増えてきている。

事故や災害は数百年、数万年に一回の頻度でしか発生しない。それに対し、一人の人間が現役として活動する期間はわずか 30 年ほどでしかない。

リスクを検討するとき、その事故等は今後も絶対に起こり得ないのか、幸運にも今まで起こらなかったに過ぎないのか、は非常に重要であるが、事故や災害のように発生周期が非常に長い事象を帰納法で判断するのにはそもそも無理があり、論理的アプローチが必要なのである。

●帰納法の功罪

帰納法で動く社会では判断のベースとなる経験を多く持つ人が有利になる。これは若者には極めて不都合な社会である。

なぜなら、経験の量では若者は絶対に年寄りに勝てないのだから。現役世代が疎んじている『働かない年寄り』たちが跋扈するようになる。新しい提案を出しても、「経験していない者には分からない。」の一言で切り捨てられてしまう。

経験至上主義は変化が少ない社会ではすばやく的確な判断に到達できる。しかし、変化の大きい社会には不向きである。つまり、これから先の日本には向いていない。

●情報判断能力の過信

「〇〇さんは、もう少し経験を積めば（〇〇できるようになる）‥」という話をよく聞く。

最近話題の ChatGPT も、「もう少しデータが充実してくれば（もっと画期的なことができる）、‥」と言われている。

どちらも、「情報を評価する能力は誰にも備わっている。あるいは一定の経験さえ積めば誰でも身につけることができる。いま不足しているのは経験・データの量である。」ということが前提になっている。

しかし、もしそうだとすれば、コミュニティでは最高齢の老人が最も優秀で、会社では定年前のロートル社員の能力が最も高いはずである。現場のプラントを最もよく理解しているのはベテランオペレータでなくてはならない。

能力を決めるのは経験の量だろうか？

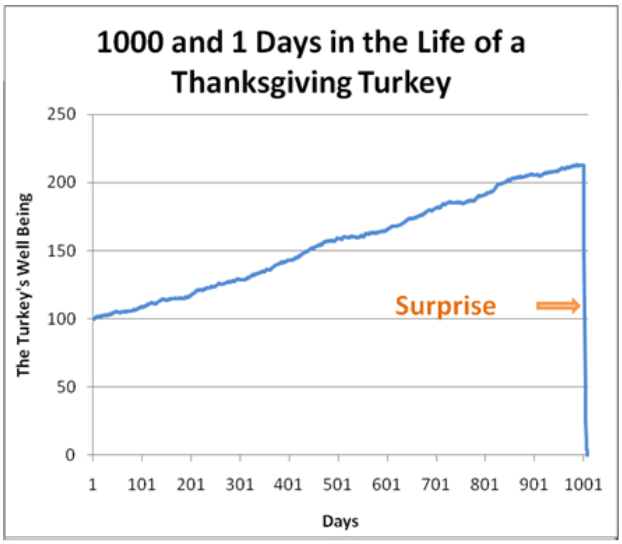
一方で現実社会は逆に、新しいものは古いものよりも優れているという前提で動いている。

どちらも評価軸がずれている。おかしな話である。

●経験がマイナスの価値を持った～ブラック・スワン

これは、タレブ（Nassim Nicholas Taleb）の著書『ブラック・スワン』に載っているある七面鳥の日ごとの体重変化である。

グラフは 1000 日目のところで突然、折れ曲がっている



NASSIM TALEB ：Consider The Thanksgiving Turkey…Business insider Australia

七面鳥は生まれてから毎日、たっぷりと美味しいエサを与えられる。体重は順調に増える。世話をしてくれる人はとてもいい人だ。この幸せは明日も明後日も続くと信じるようになる。

ところが 1000 日目の日、毎日エサをくれていたその手で突然首を絞められ、丸焼きにされてしまうのである。

その日は感謝祭の日であった。

この話は、今日のデータから明日の値を推し量ることはできるとは限らないこと、経験はゼロどころかマイナスの価値を持つこともある、という教訓を示している。

●歴史はジャンプする

化学プラントも、前触れもなく突然、不具合や能力低下が発生することがある。運転中の計器等のデータの変化から設備の状況を察知し、不具合が起こる前に的確に手を打てるのが有能なオペレータであるが、前触れがない場合はお手上げである。

世の中でも同じように、予想さえしなかった“外れ値”が社会に壊滅的なインパクトを与えることが過去にもしばしばあった。

第一次世界大戦、ベルリンの壁の崩壊、金融危機など多くの歴史的な事件は、不連続的で突然発生したかのように見える。

タレブは『ブラック・スワン』の中でこうも言っている。

「歴史は流れるのではなく、歴史はジャンプする。」

●再び感謝祭の七面鳥

“ビッグデータ”がバズワードになっている。データが多いほど真実に近づけると考える人は多い。しかし、もしそうであれば、七面鳥の体重をさきほどのグラフのように一日一回ではなく、一時間に一回測定すればデータ点数は 24 倍に増える。一分に一回測定すれば 1440 倍に増える。

しかし、それでも七面鳥の 1000 日目の死を予測することはできない。モニタリングする変数が適切でないからである。

問題はデータの多寡ではない。どれだけ大量のデータを採取しても、感謝祭に関する情報が欠けていれば、未来を的確には予測できないのである。

●八つぁんの亀

八つぁんに至っては、亀は長生きという世間の風説を鵜呑みにし、モニタリングすらしていない。八つぁんが買った産まれて 9999 日目の亀、死因が老衰であったならその時点で死の確率はすでにかなり高まっていたはずだが。まあ、買ってから死ぬまでわずか一日では何かを調べようにも時間が足りなかっただろう。

●相関関係は因果関係ではない

どの変数をモニタリングすればいいか分からないことはよくある。そんなとき、測定できる変数を手あたり次第に測定し、データを見てから変数どうしの関係を考えよう（あるいはそれも AI にさせよう）という人が出てくる。自分の頭で推論を立てようとせず、大量のデータから力ずくで因果関係を導き出そうとする。しかし、そうやって見出せるのは相関関係であって因果関係ではない。ここを勘違いしている人は多い。

経験の枠からはみ出るには論理的な思考が必要なのである。

●いままた、梅棹忠夫『知的生産の技術』

出会ったのは中学生のときであったが、眼からウロコの一冊であった。

1969 年、パソコンもスマホもまだ世になかった時代、著者の梅棹忠夫は情報を加工再構築して付加価値を加える作業のことを“知的生産”と定義していた。名著『知的生産の技術』である。

55年前に現代の情報産業の誕生を予見していたのである。まさに慧眼である。『京大型カード』など情報整理のツールに時代を感じる、などと表面的な批評をする者もいるが、その価値はツールではなく、現代でも十分通用する発想にある。

それを言うなら、現代人のようにスマホで検索するという作業は何も新しい情報を生産していない。ツールは最先端のものを使っていても知的活動としては極めて低レベルである。梅棹忠夫はこれを“知的消費”といって“知的生産”とは区別している。

梅棹忠夫 知的生産の技術（1969 岩波新書）

IT 技術に不慣れな人を“情報弱者”などと時代の落伍者のように評する割りには、扱う情報の質に関する議論をあまり聞かないのは不思議である。

インターネットの時代、素人が情報発信できるようになり、正しくない情報が垂れ流されるようになった。

先述の医師の友人は、「最近は間違ったネット情報を鵜呑みにする人が多いので困る。」とこぼしていた。テレビでまともな医学情報を流している番組はいまや二つしかない。」とのこと。医療情報を検索すると気付くが、ズラリと出てくる情報の半分以上はウソである。玉石混交というが、玉の中に石が混じっているのではなく、大量の石の中に玉が混じっているのがネット空間の現状である。

「最終判断は人間がしないと‥」と言う人がいるが、そもそも分からないから調べているのである。さきほどの医者のぼやきが端的に示しているように、検索に頼る人に情報の正誤を判断するリテラシーはそもそも無いのである。

かつての情報源であった新聞、百科事典などは基本的にはプロが吟味して発信した情報であり、ユーザーがその真偽を判断する必要はほとんどなかった。過去に現代ほど情報の真偽の判断能力が求められる時代はなかったのである。

それに、素人レベルの稚拙な考えや意見は、仲間、先輩などとの日常のコミュニケーションで是正され、間違ったまま世の中に垂れ流されることは無かった。

最近、大学で論述式のレポート試験をすると同じような間違いがいくつも出てきた。

不審に思って検索してみると、某化学会社のエンジニアのブログにたどり着いた。

学生たちは同氏の理解の浅さに起因する稚拙な思い違いで書かれたブログをコピペしていたのであった。

梅棹忠夫は、情報は量ではなく質だと言っている。

小学生からプログラミングを教えるのも結構だが、これからの時代、スマホで得た情報や人の話を鵜呑みにするのではなく、知識・情報を自分の頭の中で有機的につなぎ、みかけの現象の背後で現象を支配している原理、メカニズムを推察する思考力をもった人を育成しなければならない。これが日本の急務であると感じる。

上席化学工学技士
大阪公立大学非常勤講師

第 41 回 高の原文化協会文化祭

記念講演・上演・作品展示

開催日　2023 年 11 月 3 日（祝・金）・4 日（土）・5 日（日）
時　間　3 日 12：30 開場　開会式：13:00～13:30 記念講演：13:30～15:00
　　展示会：12:30～17:00
　　4 日展示会：10:00～17:00　上演：13:00～17:00
　　5 日展示会：10:00～16:00　上演：13:00～16:00
会　場　奈良市北部会館 3 階　　市民文化ホール

奈良県みんなでたのしむ
大芸術祭

写真は昨年の文化祭展示作品・上演より

主催：高の原文化協会・
　　奈良市北部会館市民文化ホール

ご挨拶

このニュータウンの開発から５０年が経ちました。平城ニュータウンは「高の原」と改名し、新たなスタートを切りました。これに伴い、文化協会も名称変更し、今回初めての「第 41 回高の原文化協会文化祭」となり、心機一転してスタートいたします。本日はお忙しいところご来場いただき、誠にありがとうございます。

今年の文化祭もコロナ感染防止策に配慮し、舞台上演や記念講演会を含んだ４年前と同様の文化祭を地域の皆様と共に楽しめることは何よりも喜ばしいことです。

各講座・同好会の素晴らしい作品展示や舞台発表、また地域で活動されている各種グループによる上演など多彩な内容でお届けいたします。

更に、奈良大学名誉教授の西山要一先生には「化学分析が解く真鍮の日本史」と題したご講演を快くお引き受けいただきました。内容が充実し、皆様のご期待に応えられる楽しい文化祭です。

お力添えくださった奈良市北部会館市民文化ホール、各自治連合会など、多くの方々に厚くお礼申し上げます。

今後も高の原文化協会は「地域文化の発展」に寄与できるよう努めてまいります。そして、伝統を尊重しながら時代に即した新しいアプローチを取り入れ、文化協会の魅力を一層高めていく覚悟です。関係各位のなお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

高の原文化協会
会長　明政　文男

ご挨拶

第４１回高の原文化協会文化祭の開催おめでとうございます。

本年度から北部会館市民文化ホールの指定管理者が社会福祉法人奈良市社会福祉協議会になり初めて共催で開催させていただくことになりました。

福祉と芸術文化、少し異なる分野に思えますが、双方ともひとりひとりの心豊かな暮らしにつながるものです。特にコロナウイルス感染症の流行下では様々な活動が制限され、困難な状況を乗り越える中で、芸術文化が心豊かに暮らしていく支えや原動力になった方も多かったのではないでしょうか。制限が解かれ日常生活が戻りつつある今、当ホールが芸術文化を通じて地域の人々のつながりづくりの場と心豊かな暮らしの場となるよう運営に努めてまいります。

そして今日から開催される文化祭で、各講座・同好会をはじめとした、さまざまな文化活動を通じて作り上げてきた作品や舞台を地域の皆様にも広くご覧いただき、新たな趣味や活動、仲間づくり、そして地域文化の発展につながることを願っています。

奈良市北部会館市民文化ホール
所長　木原美和

開　会　式

日時：11 月3日（祝・金） 13:00～13:30

会場：奈良市北部会館３階 市民文化ホール

- 開会宣言　　高の原文化協会会長
- 挨拶　　奈良市北部会館市民ホール 所長
- 来賓挨拶

記　念　講　演（入場自由）

日時：11 月3日（祝・金）　講演 13:30～15:00
会場：奈良市北部会館 3 階 市民文化ホール

講演者：奈良大学　西山 要一　名誉教授

演題：「科学分析が解く真鍮の日本史」

― むかし、真鍮は金に等しい価値があったー

講演概要：法隆寺や正倉院には舶来の真鍮製品が伝わっています。そして江戸時代になって国産の真鍮製品が作られます。その間の古代末～中世、日本には真鍮はないといわれていましたが、2012 年に平安時代の紺紙金字経の金字に真鍮が使われていることを科学分析によって明らかにし、これをきっかけに分析や史料の研究を進め、日本の古代～現代までの真鍮の歴史が概観できるようになりました。とはいえ、その歴史は複雑です。銅と亜鉛の合金である真鍮は、亜鉛の鉱石からの精練（抽出）が難しく、古代～中世は真鍮製品と真鍮のインゴットの輸入、近世は国産銅と輸入亜鉛の合金による真鍮製品の製作、そして近代・明治時代になって、ようやく銅・亜鉛ともに国産材料を使って製品を作ることが可能になります。

現代、真鍮製の五円硬貨や道具などさまざまな真鍮製品が身近にありますが、古代～中世の真鍮は金に等しい価値がありました。真鍮の歴史を辿ってみたいと思います。

経歴：1971 年 龍谷大学文学部（史学科国史学専攻）卒業
1972 年 元興寺仏教民俗資料研究所（現元興寺文化財研究所）
1985 年 奈良大学文学部文化財学科
2015 年 奈良大学定年退職・奈良大学名誉教授

著書：『古代～中世の「鍮石」「真鍮」の研究－金に等しい価値があったころ－2021年度研究報告』、2022 年
『レバノン共和国ティール郊外 ブルジュ・アル・シャマリ T.01 遺跡の保存修復』、2015 年
「被災文化財を保存し未来に伝えること」、奈良大学文化財学科『文化財学報 31』、2013 年
「世界遺産の大気環境と適正環境策定の研究」、『奈良大学総合研究所所報 16 号』、2008 年
「東アジアの古代象嵌銘文大刀」、奈良大学文化財学科『文化財学報 17』、1999 年
『地震から文化財をまもる』、1995 年

作品展示グループ紹介と出展者（順不同）

◆ 折り紙を楽しむ会　　リーダー　熊本悦子

コロナ禍の中にあっても、木津川市の要請で、交換留学生との折り紙教室を実施、貴重な楽しい経験となりました。
毎月の講座も会員交代で作品を試作・教えたり教えられたりで工夫を凝らした一年でした。
同じテーマで折った作品でも個性が出ます。どうぞごゆっくりご覧下さい。

【出展者】新司輝江・石野由紀子・
魚野久江・加藤僖三恵・
熊本悦子・篠原ひろみ・
関山志ず江・小山敬子・
谷口三枝子・永瀬善子・
中野美恵子・永松笑子・
中村勝子・永吉佐香恵・
西川治美・西村絢子・
古畑美佐子・山形幸枝

◆ 絵画・絵手紙の会　　リーダー　日比野 豊

絵画・絵手紙の会は、現在絵手紙コースとして会員は１１名ほどで、毎月２回火曜日の午前中に北部会館２Ｆ で開催しています。
絵手紙は「絵」と「文字」で、一枚のはがきに自己表現する日本文化です。
各自が好きな題材となるモチーフを持ち寄り、面白く・おかしくなるように工夫しながら「画仙紙」に描き、そこに何かを表現して文字を添えて絵手紙に仕上げます。
絵手紙の基本は「下手でいい、へたがいい」をモットーであり、気の向くままに季節の野菜・くだもの・お花・野草や置物・アクセサリー等々何でもモチーフになりますので、好きなように描いています。モチーフは各自持参しますが、色々なモチーフがありますので、会員同士でモチーフを交換しながら描いています。

絵の上手・苦手に関係なく、初めての方も、ご興味のある方は是非見学に来てください。
展示は今年も絵手紙中心で、各人、今まで描いた作品から 12 枚を選定して展示しました。
【出展者】　日比野 豊・中野美恵子・西村絢子・江澤圭子・藤田二三子・熊本悦子・
島川恵美子・神谷文子・有岡隆子・平尾トモ子・谷口弘子

◆　俳句を楽しむ会　　講師　小谷廣子

小谷廣子先生を囲み、自作の句を三句持ち寄り、月一回北部会館にて句会を行っています。また、年に一度は歳時記を片手に吟行に出かけ、皆んな和気あいあいとしたとても楽しい会です。

今年の作品も、この一年間に作句した中から各自の好きな句を選び、出展しています。

【出展者】小谷廣子先生・有岡隆子・大谷とし子・相良哲美・杉田敏江・西脇岑子・
納塚信水・松村如洋・松村せつ子・松本義實・今津博・守先光代・足立博樹

◆　スマホとパソコンを楽しむ会　（旧：IT を楽しむ会）　　リーダー　南　秀典

『スマホとパソコンを楽しむ会』は、スマホの取り扱いやアプリの操作、パソコン、電子機器一般について、学んだりお互いの情報を交換しあったりする勉強会です。ときには ChatGPT のようなホットな話題もとり上げます。

毎回、スマホとパソコンを約 1 時間ずつ、それぞれ応用クラスと基礎クラスとに分かれますので、全くの初心者の方にも分かりやすくなっています。

原則として、毎月第 1・第 3 火曜日の午後 1 時から右京ふれあい会館の新会議室で開催しています。

一緒に学んでインターネットを生活に役立てませんか。見学も随時受け付けておりますのでお気軽にご連絡ください。なお、パソコン、スマホ等の機材はご自身でお使いのものをご持参ください。

これまでの活動を下記のホームページにご紹介しております。ご参照ください。

https://www.7crystalsky.com/

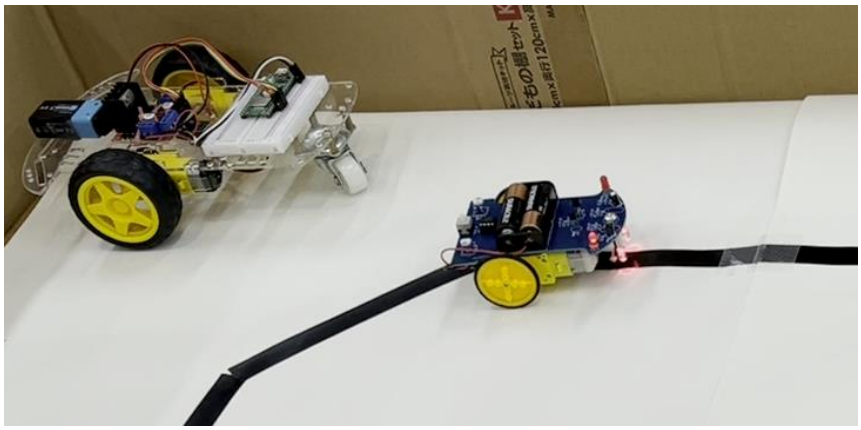
◆　電子工作同好会　～電子の世界への入口～　　リーダー　松尾　匡

電子工作は、自分のアイデアや想像を具体的な形にする手段です。コンピュータやセンサー、モーターなどのデバイスを組み合わせ、プログラムで制御することで、自分だけのオリジナルな装置やシステムを作り出すことができます。何か新しいものを生み出す過程は、創造的な思考を刺激し、アイデアが現実になる楽しさを体験できる点が魅力です。

私たちの同好会は、現在８名で毎月第３月曜日の 13 時から、右京ふれあい会館新館で例会を開催しています。

私たちは今年の文化祭で電子工作のデモを用意しています！ラジコンカーそして LINE 通知でお部屋を監視できる装置などをお見せします。もしご興味をお持ちいただける方は、どなたでも大歓迎です。初心者から上級者まで、知識や経験は問いません。ぜひ、電子工作同好会の一員として、テクノロジーに触れ、楽しい仲間とともに学び、創造し、製作しませんか？

文化祭当日、私たちのブースでお待ちしています！



◆ パッチワーク研究会　　リーダー　打田照子

コロナのニュースを聞かなくなったと思ったらこの猛暑。またもや外出を避けて、家でコツコツ作品作りです。

気持ちは若いが体力と根気がついていけない年齢になり、メンバーの引越等で仲間が減り、作品の数をカバーする為に、頑張って針を進めています。その成果を見て下さい。

会員の募集をしています。

【出展者】打田照子・住吉紀子・阪本千賀子・植倉裕子・谷口三枝子・成田美智子

◆ 硬筆習字万葉書き方教室　　講師　中西温子

私達が学んでいる万葉書き方教室が、今年で 10 年になります。

これをひとつの区切りとし、題を定めず「無題」として、今まで学んできた万葉集等から各自好きな歌を作品としました。

月一回、万年筆、筆ペンなどを使ってお手本を見ながら書きます。添削してもらったものを自宅で練習して、次回に少しでも上手になるようにしています。

開催日　第４土曜日　１３時半～１５時

場所　　右京地域ふれあい会館

【出展者】講師　中西温子、新司輝江・池田八重美・魚野久江・岡田君江・岡田知枝・椚原厚子・熊本悦子・中嶋幸子・麓　愛子・柳本惠子・田克治・武山厚子

◆　短歌を楽しむ会　　講師　櫟原 聰

心に残った事を三十一文字に表す短歌。短い日記。頭の体操です。

他の人の短歌を読むのも楽しみです。「その気持ち分かるなぁ」とか、「なるほど」とか・・・

ご指導していただいている櫟原先生のコメントが素敵です。感想を言い合い、他の人の話を聞くのも楽しいです。

作品展ではこの一年間で作った短歌の中から各自１首を展示しています。

【出展者】櫟原 聰先生・岡　典子・奥田敦子・覚知修三・古賀順子・近藤好廣・阪上　元・田中みや子・玉置小代・辻本典子・遠山京子・中　紀子・野村明子・野村道子・松村せつ子・宮本郁江

◆　押し花とプリザーブドフラワーを楽しむ会　　講師　高橋かおり

今年の押し花はそれぞれの作りたいデザインを楽しんだお教室です。

それぞれ個性的でアイデア満載の押し花作品や可愛い押し花を使った小物も展示します。

プリザーブドフラワーはまるで生花のようなお花を使ったアレンジが並びます。

今年も素敵な作品を是非ご覧ください。興味のある方は場所と時間を確認いただき、是非見学に来てください。

活動日：月一回、第 4 水曜日　場所、主に右京ふれあい会館ですが、月によっては変更もあります。時間についてもお問い合わせください。

【出展者】伊藤京子・鈴木佐知子・野原雅子・吉田敬子・森山満里子・中岡美幸・高橋かおり

◆ わくわくニット　リーダー　松岡好子

60 代から 90 代の会員で、和気あいあいと編み物を楽しんでいます。

お母さんの編まれた、カーディガンの穴の繕いの仕方を教えてもらっている方、初心者で編み目を落として修復をしてもらっている方など、手と口を動かしながら、編み物作品を制作しています。

文化祭に向けて、1 年間豪華な作品を仕上げておられる方もいらっしゃいます。

月 1 回、第 1 木曜日、高の原駅前団地集会所で 13 時から 15 時まで集まっています。

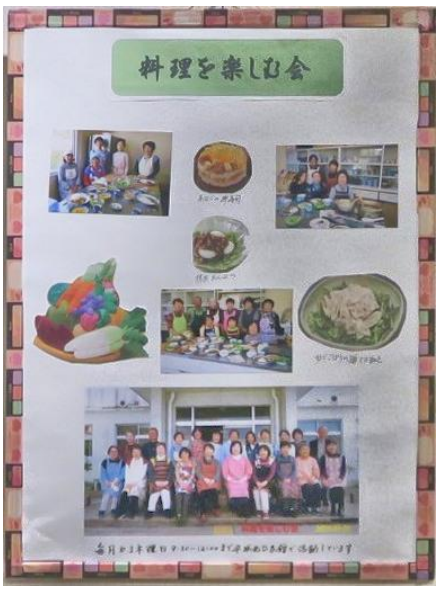
初めての方は気軽に教室を覗いてみてください。お待ちしております。

【出展者】　堀口千秋・島川恵美子・鷲尾牧子・渡辺直子・大西洋子・榊原厚子・松岡好子・成田美智子・柳本恵子・松村幸子・戸田房子・矢野祥子・野村明子・大平ひろみ・住吉紀子・松川景子

◆ 料理を楽しむ会　　講師　川崎泰子

今年はコロナ禍が終息したので喫茶コーナーを再開することになり、美味いコーヒーを味わって戴くことが出来そうですので、奮って喫茶コーナーにお越し下さるよう会員一同お待ちしております。

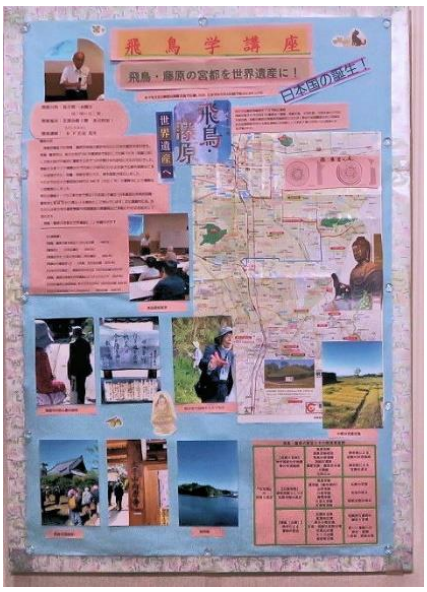
料理教室は毎月第 3 木曜日、午前 9 時 30 分から西公民館で、松村せつ子先生の指導の下開催しておりますので、興味のある方は見学にお越しください。



パネル展示によるグループ活動の紹介

◆ 飛鳥学講座　　講師　木下正史（東京学芸大学名誉教授）

パネル ①　飛鳥学講座は木下正史（東京学芸大学名誉教授）先生に毎月第一水曜日 10 時～11 時 30 分まで講義をして頂いています。現在は『考古学で探る「日本国」の誕生-日本最初の本格的宮殿・藤原京と新益京から探る-』をテーマと



した教材を頂き、木下先生自身の現地調査の経験を生かし、きめ細かい解説をして頂いています。「色々な文化や制度は国際交流で伝播したが、日本ではそのままを踏襲するのでなく、独自の文化と伝統で作り上げた。」と教えて頂きました。

『飛鳥藤原世界遺産』登録申請を 2023 年 6 月 29 日に文化庁へ行い、木下先生は協議会専門委員会委員長として活躍されています。新しい視点で飛鳥・藤原を提案されました。

パネル ②　飛鳥学講座では年に数回は現地講座を実施しています。奈良を中心に遺跡を巡り現地で詳しい説明をして頂けます。このパネルでは『草壁皇子に関わる真弓・佐田崗の知恵を歩く』で高取町の古墳群を巡りました。高取町は奈良県内でも有数の古墳集中地域であると同時に、古代豪族が築いた前方後円墳や渡来系集団の奥津城とされる群集墳、更には王族級の古墳もあります。この日は市尾墓山古墳、束明神古墳、与楽カンジョ古墳、与楽鑵子塚古墳、真弓鑵子塚古墳などを巡りました。

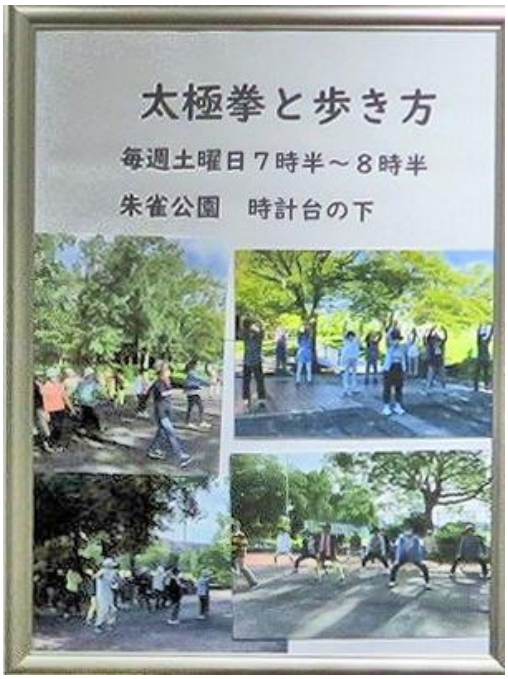
出展者　　松本　和英

◆　歌声サロン　　講師　小島 順　　世話役　北島 忠

私達は、何気なく歌ってるが、日本の音楽の起源って？と、ふと思い調べた。一番初め発祥した音楽は、古代前期の民謡から発達したものと言われてる→7～8 世紀に林巴楽(ベトナム)・渤海楽(中国)が伝来し古代音楽と融合して、平安初期の頃「雅楽」が生まれた→平安中期から鎌倉時代に「今様」や「平曲」が生まれた→明治時代は、「浪曲」が生まれ・自由民権運動の演説歌から「演歌」が生まれ、大衆歌謡の基礎が作られた→大正 10 年に西洋音楽の手法も取り入れ、♪船頭小唄が日本固有のヨナ抜き音階(五音)で、作曲され昭和歌謡の基礎となった→昭和(特に戦後)以降に、凄い勢いで多くのジャンルの音楽が生まれているが、音楽は楽しければ良い。一回/月に行く所がある。お喋りする所がある。上手は上手なりに、下手は下手なりに大声で楽しく歌える所がある。皆様のご参加をお待ちしています。

◆　太極拳と歩き方　　リーダー　岡　典子

毎週土曜日　朝７時半より１時間、朱雀公園で花・木々・鳥の声・風を感じながら体を動かしています。
人と人とが顔を合わし、ゆっくり体を伸ばし、呼吸・姿勢に気をつけながら、少しずつ足腰を鍛えています。
健康寿命を延ばしましょう。



◆　英語講座　　講師　森田安子　　世話人　佐川道夫

今年３月に橋本先生が引退され、自主的に講座を続けていました。基本的に前半は初級、英語の歌、後半は中級と今まで通りです。
７月から後半の部に森田先生が来て下さり、ドキドキしながらの講議が始まりました。英字新聞の記事を利用して英語の奥深さを学んだり、辞書が大活躍です。　難解な面もありますが、先生の話法の巧みさが我々を引っ張て下さり、今日に至っております。　初級と中級を繋ぐ歌で気分転換。早口言葉みたいな歌詞には毎度苦労してますが、楽しみでもあります。見学大歓迎、ともに笑って汗かいて学びませんか？

会場：　右京ふれあい会館
開催日：　毎月　第２・第４月曜日
９：３０～１１：３０

◆ 源氏物語を読む会　　講師　舩津喜美子

昨年 1 月に講師が浅田先生より舩津先生に引き継がれて、二年ぶりに再会致しました。テキストはメンバーがインターネットよりダウンロードした原文を使用しております。　先生が読まれた後、全員で唱和し、先生の解釈と現代語訳をお聞きし、瀬戸内寂聴の口語訳も紹介されます。9 月より『明石』に入ります。光源氏の青春が終わり、中央政界に復帰し、出世していく華やかな時を迎える光源氏に、読者も胸躍る気持ちになると思います。

文化祭では毎年、源氏物語のテーマを選んで、メンバーが工夫した展示をしております。

どうぞ「源氏物語の世界」にお出かけ下さいませ。

◆ 中国語同好会　　講師　宿　俊明(入門コース)　　北崎光一（応用コース）

毎週木曜日に右京ふれあい会館（旧館）で中国語を学んでいる同好会です。

男女ほぼ同数の総勢 20 数名で楽しく学んでいます。

◎入門コース（9：00～10：30）では、先ず、中国語の基礎である発音（四声）を重点的に学びます。中国語の音の上げ下げ（四声）は、同じ漢字でも四声が変われば意味も変わってきますので、繰り返し、繰り返し練習をしています。また、基本的な会話や構文などを NHK ラジオ、テレビ講座などのテキストを使って学んでいます。最近では、手軽に利用できる YouTube を使って講義に関連した内容などをスクリーンの画面で、ネイティブの発音も目と耳両方で確認出来るようなりました。中国語入門コースのプログラムは多彩で、これ以外に講師が作成するプリントで、現代中国事情、時事中国語など最新のニュースにも接することが出来ます。

◎応用コース（10：45～12：00）では、NHK ラジオ講座「レベルアップ中国語」やプリントなどを使って、長文解読や漢詩の鑑賞など、中国語の奥深さや魅力を学んでいます。

中国語同好会では、語学を学ぶだけでなく、季節ごとの歌を歌って楽しんでいます。歌を歌うことで、中国語が自然と身に着くことにもつながります。また、懇親会なども行って、会員同士の親睦を図る、楽しい同好会です。是非一度見学にお出で下さい。大歓迎です。

同好会の詳細は、ホームページ　http://heijyo-newtown-china.jimdofree.com/をご覧下さい。

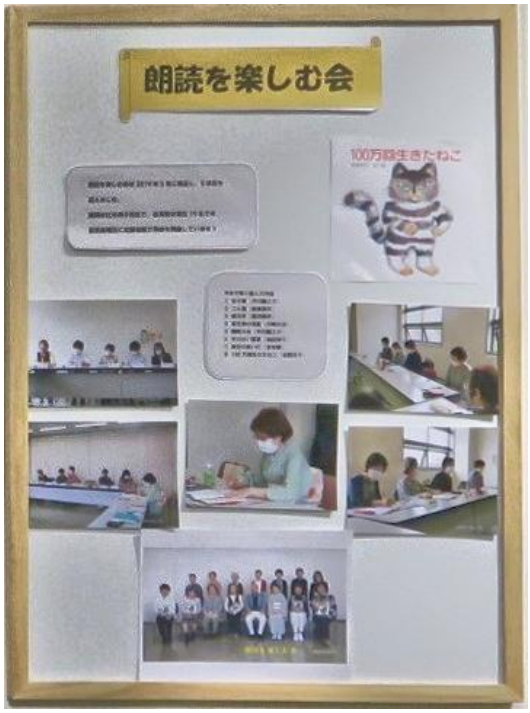
◆　ゆっくり歩こう会　講師　小嶋敬二郎

「ゆっくり歩こう会」も 2010 年５月から歩き始めて 13 年目になります。８月現在 90 回完歩しました。

コロナ禍ではありますが、コロナに負けず、休まず、四季それぞれの行き先の歴史・風土を愛でて味わい、皆様、最後まで楽しく元気に歩いていただいています。講師の小嶋先生には毎回コースを考えて頂いています。歩こう会は１月、３・４・５・６月、９・１０・１１月、第１日曜日（１月５月 11 月が第３日曜日）、雨天の時は順延です。今年の 11 月には９３回となりますが、みなさんの意見を取り入れながら 100 回記念を盛大に催したいと思っています。文化協会のニュースを見てから参加するか決められるので、ご都合つき次第、どうぞご参加ください。

★参加費　３００円/回。１回の平均は約 20 名です。最高は３４名でした。

◆　朗読を楽しむ会　　講師　辻本典子　　世話役 真中礼子



「朗読を楽しむ会」は、毎月第四金曜日の午前 10 時半から、北部会館で例会を開催しております。講師は辻本典子先生で、現在会員数は、１９名です。

これまで芥川龍之介や藤沢周平、向田邦子などの作品に取り組んで参りました。文化祭への出演は昨年に続き、２度目です。　本年度は宮本輝作「夜空の赤い灯」と、佐野洋子作「100 万回生きたねこ」の二つの作品の朗読を発表させて頂きます。

また展示コーナーでは、毎月の例会の際の練習風景を写した写真を集め、パネルとして展示しています。

ご来場の皆様には、日頃、私達が学んでおります“朗読の楽しさ”の一端でもお楽しみ頂けますと幸いです。

◆ **ウクレレを楽しむ会　　世話人　荒川成子**

ウクレレサークルは、ウクレレを愛する人たちが集まって、楽しく演奏や歌を練習する場所です。

初心者でもゆっくりと丁寧に教えてもらえるため、誰でも気軽に参加することができます。ウクレレは小さく持ち運びも簡単なため、外で演奏したり、仲間同士でセッションを楽しんだりもできます。

また、様々なジャンルの曲を演奏することができるため、幅広い音楽好きな人たちにもおすすめです。ウクレレを通じて、新しい友達や楽しい時間を過ごしましょう！

〇会 場 左京３丁目 アルス高の原 小会議室
〇日 時 第 1､3金曜日 10時から 12 時
＊ウクレレ持参です。

上演 1 日目 《11 月 4 日(土)13:00～17:00》

◆ **沖縄民謡　　なんくる三線倶楽部　　代表 又吉　奈緒子**

曲目　1．国頭（くんじゃん）さばくい　　2. ましゅんく節
3．芭蕉布　　4. 新安里屋ゆんた
5．島々美しゃ　　6. 豊年音頭

出演者　勝間ゆき子・清水真木子・中川尚子・日根千明・大浜弘子・長井仁美・橋満 律子・山﨑加代子・又吉奈緒子

◆ **朗読を楽しむ会　　講師　辻本典子　世話人　真中礼子**

演目　1．100 万回生きたねこ（佐野洋子作）
2．夜空の赤い灯（宮本輝 作）

出演者　1．安達和子・岡田知枝・椚原厚子・小林幸子・相良恵子・徳久和子・富田三千子・西村好子、増田恵子、松村せつ子、真中芳美、真中礼子、山口和代、
以上「100 万回生きたねこ」に出演
2．高部恵理子、田中千代子、中野まゆみ、
以上「夜空の赤い灯」に出演

◆　**ウクレレ演奏　　ウクレレを楽しむ会・レアレア　　代表 荒川成子**

曲目　　１．バラが咲いた　　２．里の秋
　　３．アロハオエ　　４．お楽しみ

出演者　明政文男・荒川成子・石野　巌・阪本千賀子・中野結子・西村通弘・西村ほずみ
　　松本尚美

◆　**英語で歌おう　　英語講座　講師　森田安子　世話人　佐川道夫**

曲目　　１．Mary Had a Little Lamb　　２．London Bridge (Is Falling Down)
　　３．Top of The World　　４．The Tennessee Waltz
　　５．Santa Claus is Coming to Town

出演者　森田安子・杉山浩平・荒川成子・大浦貞子・大垣良美・北島忠・北原昭子・
　　佐川道夫・垂水美貴子・中西章人・井上裕子・宮城美佐保・村田民子・松本 弘・
　　松本 操・橘 睦美・熊田てる子

◆　ゴスペル　レインボー・ゴスペル・クワイア　講師：ジョン・ルーカス　代表 灰谷智子

（講師は出演せず）

曲目　1．Hallelujah　2．Total Praise
3．ふるさと　4．Revelation 19:1

5．Everybody Clap Your Hands

クワイアメンバー　灰谷智子・平本小百合・古東真智子・紀元奈穂美・松尾和美・種谷名緒子・梶本暁美・升田理子・仲西聡子・大谷近子・吉田光里

◆　楽器演奏　朱雀地区社会福祉協議会　楽器サロン　代表 作間 泉

曲目　1．星に願いを　2．ふるさと
3．ブラジル　4．サザエさんメドレー
5．戦場のメリークリスマス　6．リベルタンゴ

上演 2 日目 《11 月5日(日)13:00～16:00》

◆　吹奏楽　奈良みささぎウィンドアンサンブル　代表 宮西和広

曲目　1．宝島　2．イギリス民謡による行進曲
3．涙そうそう　4．日本の四季「秋」
5．昭和アイドルコレクション

出演者　宮西和広・増田友里・乾裕美子・山本恵子・安原麻里・深瀬えるむ・丸岡太樹・

村田進一・安原正行・吉田 孝・木山竜志・野井奈美子・菅原勇・齊藤功・千葉かの子

◆　**ハーモニカ　　ならやまハーモニカクラブ　　代表 森岡富子**

曲目　1．栄冠は君に輝く　　2．愛の賛歌
3．証城寺の狸ばやし　　4. いつでも夢を
5．ビートルズメドレー　　6．黄色いリボン
7．ドナウ川のさざなみ　　8. ラ・クンアパルシータ

出演者　相川信之・相川順子・赤井政次・池本眞美子・今西紀子・工藤節子・桑山章造・小中佐代子・小林洋市・菅原通孝・西村通弘・藤田房子・水口冨美永・森岡富子

◆　**中国語で歌おう　　中国語同好会　　講師 宿　俊明・北崎光一**

曲目　1．月光 （ユエ グアン）　亜麻色の髪の乙女
2．牵手(チェン ショウ) 手をつないで
3．365 天 纸飞机(ティアンジーフェイジー) 365 日の紙飛行機
4．朋友(ポンヨウ) 朋友

出演者　宿俊明・明政文男・荒川成子・荒川信彦・池田八重美・彌田智一・上畑美佐・梅原健一・大久保里美・乙部美鈴・神澤 章・関山志ず江・谷口三枝子・中嶋義治・西村利左右・松下育夫・村岡ちい子・山中眞由美・山本みどり

◆　**フラダンス　レイレフア　フラ　スタジオ　　講師　田附正子**

演目　　1．ハマクア キヒ ロア　（北部会館　A）
　　2．ホーレイ　（北部会館　B）
　　3．ペアヒ オ マカナ　（奈良レイレフア）
　　4．カハラオプナ　（北部会館　A）
　　5．エ イケ イカナニ アオ ポリアフ　（北部会館　B）
　　6．レイ オ ナニアイラナ　（奈良レイレフア）

出演者　高の原健康講座 A,B チーム
　　奈良レイレフア・チーム

◆　**コーラス　　歌声サロン　　講師　小島 順**

曲目　　1．メドレー ： 浜辺の歌・野菊・紅葉　　2．小さな木の実
　　3．花言葉の唄　　4．坊がつる賛歌
　　5．公園の手品師　　6．誘惑の春（北国の春の替え歌）
　　7．あなたと共に　　8．ふるさとは今も変わらず
　　9．上を向いて歩こう　　10．野に咲く花のように

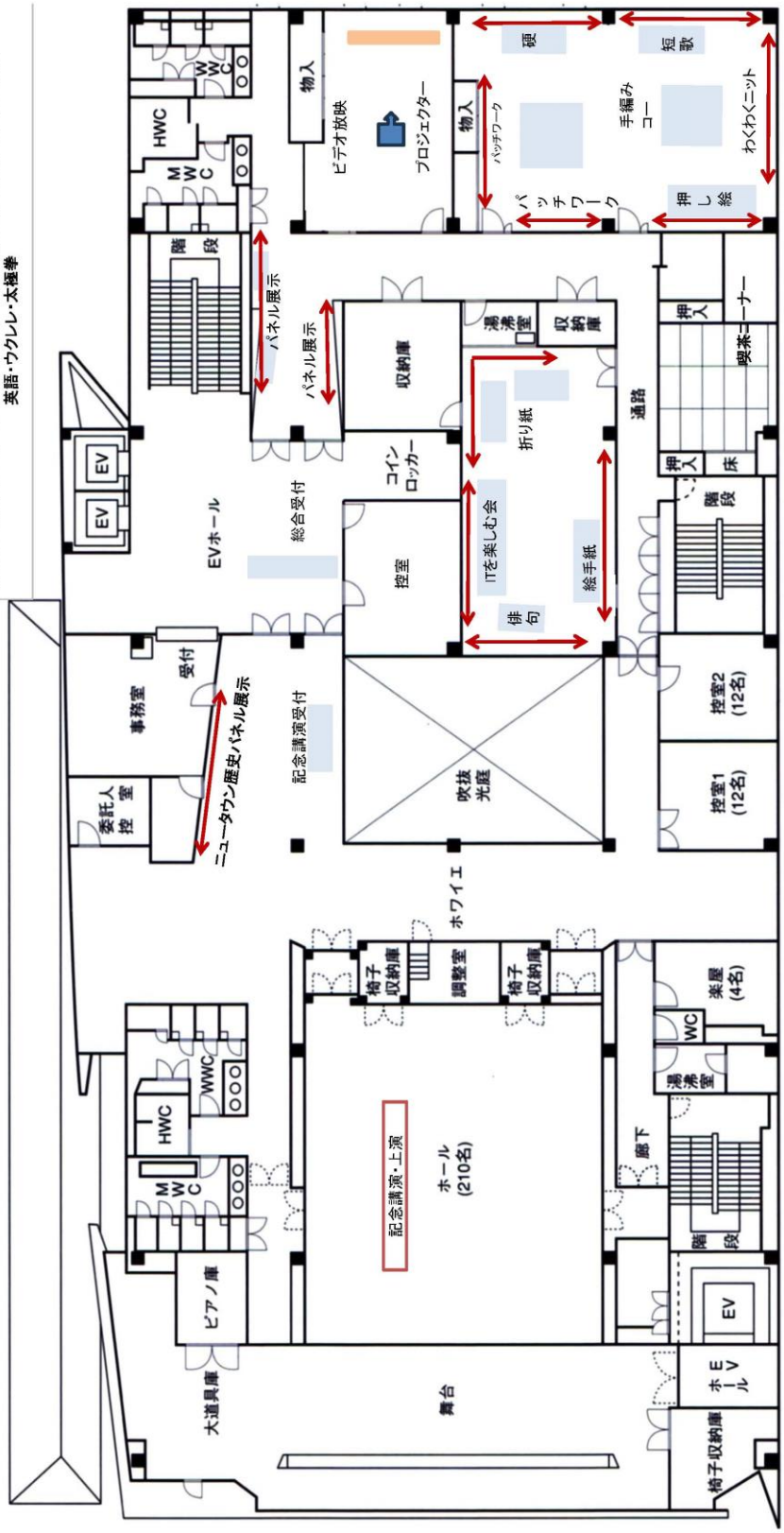
出演者　中野結子・冨江八重・村岡敏子・戸田房子・島川恵美子・垂石幸子・吉川小夜・中野洋子・佐藤和子・松村せつ子・川崎泰子・吉江園子・荒川成子・松尾淳子・永吉佐香恵・寺井アユミ・古場千恵子・今津京子・行弘義治・青山 孝・吉田克治・荒川信彦・西嶋健一・北島 忠

グループ・同好会のビデオ紹介《多目的室2》

- 歌声サロン
- 英語講座
- 絵画・絵手紙の会
- 中国語同好会
- ゆっくり歩こう会
- 料理を楽しむ会
- 朗読を楽しむ会
- 硬筆習字万葉書き方教室
- 短歌を楽しむ会
- ウクレレを楽しむ会

文化祭・作品展示グループ配置図 令和 5年11月3～5日

展示パネルグループ ： 飛鳥学・歌声・朗読・源氏・歩こう会・中国語・料理・英語・ウクレレ・太極拳



令和 5 年度　第 2 回理事会　　議事録
令和５年度 文化祭反省会

2023.12.2　事務局

開催日　令和 5 年 12 月 2 日（ 土）PM1：30～2：50

場所　　北部会館 3 階　会議室 2・3

出席者　（会長）明政　（副会長）佐川　柳本　（事務局）岡　荒川信

（18 名）理事：荒川成　石野　魚野　打田　北島　相良　鈴木　谷口　日比野　松下

松村　松村幸　渡辺

欠席者　　川﨑　神澤　北崎　小島　中嶋　松尾　南

議題

1，会長挨拶：みなさんの協力の下、文化祭が盛況に終わった。来場者は、717 名だった。とお礼。

今回は、社協との初めての共催開催だった。

2，行事部（柳本）　第 41 回高の原文化協会文化祭の反省

・9 時からの朝礼で、始まった。会員の展示は 9 時半からの朝礼で始まる。

・市民ホールの方が準備をしてくださっていたので、スムーズに展示ができた。

・白布は、協会が準備するので、当日言われても困る。

・展示用具で、ボード 1 枚について、柱 2 本と丸坐が 2 個いる。

・各展示の場所に、10 月発行のニュースを置いたほうがいい。

・ビデオルームが遊んでいた。（ビデオの順番が分かるといい。一人ついているといい）広すぎてもったいない。展示ができないか？

・短歌・俳句は当番をなくしたが、淋しい。見に来た人が感想を言いたい。

・各展示ブースにせっかく作ったプログラムの拡大版を掲示するといいのでは？

・今年は、受付、鍵当番、舞台の会場整備、司会等　各講座から沢山出てもらい、みんなで作り上げた文化祭だった。

（開会式）文化の日と重なり、他での行事のため、来賓が少なかった。

挨拶は 3 人でいい。

（記念講演）7～8 割の人が入っていた。動員がきいていた。

（上演）　北島さんを中心に、スムーズにできた。

市民ホールの方も配置場所に色テープを貼ったり工夫してくれ、スムーズに動けた。
マイクは 4 本のみと 10 月 14 日時点で言われ、舞台配置を各グループに見直してもらい、大変だった。
カセットは、CD にしてほしい。

（北島）　文化祭の前に、確認事項を明確化して、技術さん、市民ホール、係でチェックするべき。
MC とのうち合わせももっと綿密にすべき。

（松下）　上演の順番はどのようにして決めるのか？

（柳本）　準備の必要な物は最初に、最後盛り上げる物は最後に。毎年ほぼ同じ順番で決まっている。
吹奏楽は日曜日しかダメ。

（荒川）　上演は、6 月中旬ぐらいには決まる。

3，来期計画（明政）

文化祭　11 月 2 日（土）・3 日（日）・4 日（月）
総会　　5 月 12 日（日）

4，会計中間報告（明政）

（収入）　会員 248 名で、365,500 円　会員は減っている。

（支出）　2 つの大きな行事を終えて、計画通りに予算は消化している。
名称変更の為、今年度は横断幕、吊り看板、印鑑の支出。それと、ホームページの開設（3 年間分）の支出があった。

・会員を増やす工夫を。誘われて入るケースが多い。

以上

2024 年度(令和6年)

高の原文化協会

第42回総会議案書

日時　2024 年 5 月 12 日(日)

開会　午後1時 30 分より

会場　奈良市北部会館3階　会議室 2,3

総会次第

Ⅰ 開会挨拶

Ⅱ 会長挨拶

Ⅲ 来賓祝辞

Ⅳ 議長選出

Ⅴ 議事

1)2023 年度事業報告

2)2023 年度決算・監査報告

3)2024 年度役員改選について

4)2024 年度事業計画(案)

5)2024 年度　予算(案)

6)その他

Ⅵ 閉会挨拶

2023 年度(令和 5 年) 事業報告

令和 5 年

4/15(土)　NEWS N0,1(5 月・6 月の予定)印刷発行 会員(総会資料抜粋)
地域回覧(講座案内表)各連合会長に挨拶文、総会資料、回覧のお願い、
協力金のお願いを配布。　役員会① (総会の準備、確認)

5/14(日) 2023 年度(第 41 回)総会、記念講演会(永井 一彰先生)
(高の原文化協会に改名承認)
高の原文化協会ホームページ開設 (23 年度閲覧回数 948 回)

5/20(土) 第1回層富編集会議

6/3(土)　第2回層富編集会議

6/24(土) 第3回層富編集会議

6/17(土)　NEWS No,2(7月・8月の予定)印刷発行
役員会②(文化祭開催要項・「層富」発行について)

7/15(日)　第1回理事会(層富印刷の値段 10,6500 円、
文化祭 開催について)、「層富」No,40 発行

8/19(土)　NEWS No,3(9月・10月の予定)印刷発行
役員会③(文化祭ポスターの内容、文化祭開会式の挨拶 連合会長一人)

9/2(土)　第1回文化祭実行委員会

9/30(土)　第2回文化祭実行委員会

10/7(土)　NEWS No.4(11 月・12 月の予定)文化祭プログラム、
地域回覧の印刷発行、役員会④(文化祭について)

11/3(金)　第 41 回文化祭 AM.準備 PM.開会式、記念講演会(西山 要一先生)

11/4(土)　作品展示終日　上演・AM.リハーサル PM.舞台発表

11/5(日)　作品展示終日　上演・AM.リハーサル PM.舞台発表

12/2(土)　第2回理事会 文化祭反省会、会計中間報告

12/16(土) NEWS No.5(1月・2月の予定)印刷発行
役員会⑤(会長任期満了で、交代)

令和 6 年

1/30(火)　社会福祉協議会(前課長、木原所長)と打ち合わせ(文化祭について)

2/17(土)　NEWS No.6(3月・4月の予定)印刷配布
役員会⑥(次回理事会について)

3/17(日)　第3回理事会(新理事の紹介、社協との打合わせ会報告、
2024 年度総会準備、記念公演依頼(奈良大学等)、事業計画案、予算案、
No.41 号層富発行について(編集・印刷等の効率化するため A4 サイズに変更)
会長の後任人事について(選挙により日比野豊氏選出)

2023 年度 決算報告

令和５年４月１日～令和６年３月31日

収入の部				単位･円
項 目	予 算	実 績	増 減	備 考
前年度繰越金	478,098	478,098	0	
会費	375,000	367,000	△ 8,000	1500(239)1000(5)500(7)
後援費	50,000	50,000	0	各自治連合会右京4.5丁目
雑収入	0	8	8	定期利息
合 計	903,098	895,106	△ 7,992	
支出の部				
項 目	予 算			備 考
事業費				
内訳 文化祭共催費	60,000	52,560	△ 7,440	文化ホール共催費
記念講演講師お礼	30,000	30,000	0	
司会者･スタッフお礼	25,000	5,000	△ 20,000	
生花･茶菓子･他	20,000	9,642	△ 10,358	
5月講演会講師お礼	30,000	30,000	0	
横断幕･吊り看板作り替え	70,000	67,100	△ 2,900	協会名変更に伴う買替
小計	235,000	194,302	△ 40,698	
会議費				
内訳 会場費	15,000	10,600	△ 4,400	会議室料
資料代･他	10,000	10,051	51	用紙、封筒
小計	25,000	20,651	△ 4,349	
広報費･事務費				
内訳 層富会誌	120,000	106,590	△ 13,410	400冊
インク代･コピー用紙他	30,000	40,513	10,513	ニュース印刷用･他
事務用品	30,000	41,402	11,402	協会印、会長印購入
ホームページ費(3年分)	30,000	24,948	△ 5,052	3年契約
小計	210,000	213,453	3,453	
その他				
通信費	5,000	4,402	△ 598	郵送料
渉外費	7,000	10,892	3,892	奈良大手土産(3回分)
雑費	1,000	1,650	650	振込手数料他
小計	13,000	16,944	3,944	
予備費	420,098		△ 420,098	
次期繰越金	0	449,756	449,756	
合 計	903,098	445,350	△ 457,748	
総 計		895,106	895,106	

繰越金分 ¥449,756
内訳 南都銀行 ¥125,687 南都定期 ¥290,199 ゆうちょ 銀行 ¥33,870

2023 年度の会計帳簿、証票類他、関係書類等を精査した結果適正であることを認めます。

2024 年３月31日 監事 打田 照子 谷口 三枝子

２０２４年度 (令和６年)　事業計画

はじめに

高の原文化協会は、講座・同好会、文化祭及び講演会の開催、会誌「層富」および文化協会ニュースの発行などを主たる事業として活動しています。近年協会会員の高齢化に加え４ 年前よりコロナの感染拡大を受けて、会員数が大きく減少しました。今期も、文化協会の存続のため、会員の増強と財政の安定化に注力していきます。今後とも講師・会員の方々、各自治連合会、北部会館など多くの方々にご支援いただき、皆様と共に、様々な文化活動を行い「地域文化の発展に寄与」できるよう努めてまいります。

事業計画

１．趣味、学術、芸術などの文化講座の開催

優秀な講師やリーダーのご指導により、ユニークな**２１**の講座・同好会を開催します。

２．「令和６年度 総会及び記念講演会（奈良大学教授等）」の開催

開催日：令和６年５月１２日(日）PM13：30～16：00

会　場：奈良市北部会館３階　会議室２・３

文化協会の総会後、会員と地域の皆さんが関心のある歴史や文化などのテーマで講演会を開きます。

３．「第 42 回高の原文化協会文化祭＆記念講演会（奈良大学教授等）」の開催

開催日　令和６年 11 月２日(土）・11 月３日(日）・11 月４日(月）

会場　及び　共催　高の原文化協会・奈良市北部会館３階市民文化ホール

4.「高の原文化協会 NEWS」の発行（隔月）

講座・同好会の開催日時、内容、活動状況を２か月毎にご案内します。

各自治会のご協力を得て、全自治会の皆様には年２回（４月、10 月）ＮＥＷＳを回覧します。

5. 会誌「層富」№.４１号の発行

講座・同好会の活動状況、記念講演の内容および各種情報などを掲載します.

読みやすい誌面するため、用紙サイズの変更を検討します。

６．自治連合会など地域団体との連携、協力

自治連合会など地域団体の活動や催しに積極的に参加協力し、地域文化の発展に寄与します。

７．会員の増強と財政強化

奈良市、精華町、木津川市の方々に講座・同好会など文化活動への参加を呼びかけ、組織の強化をはかり、文化協会の活力を高めます。

８．運営事業内容の見直し

創立以来築いてきた伝統的な事業を、現状に見合った活動かどうかを精査し、新しいニーズに応えるため必要な変革を進めていきます。

2024 年度　予算案

令和６年４月１日～7 年３月 31 日

収入の部　　単位･円

項 目	金 額	内 訳	備 考
前年度繰越金	449,756		積立及び定期預金含む
会費	375,000		1500 円×250 人
後援費	50,000		各自治連合会と右京４･５丁目
雑収入	0		
合計	**874,756**		

支出の部

項 目	金 額	内 訳	備 考
事業費	**175,000**		文化祭･セミナー
内訳 文化祭共催費		60,000	文化ホール使用料
記念講演講師お礼		40,000	講演料＋原稿料
司会者･スタッフお礼		10,000	
生花･茶菓子代･他		20,000	
５月講演会講師お礼		40,000	講演料＋原稿料
事務用品代		5,000	
会議費	**25,000**		資料代･他
内訳 会場費		15,000	
資料代		10,000	
広報費･事務費	**155,000**		会誌･会報･ニュース
内訳 層富会誌･他		110,000	
インク代･コピー用紙･他		40,000	
事務用品		5,000	
その他	**16,000**		
内訳 通信費		5,000	郵送料
渉外費		10,000	手土産等
雑費		1,000	
予備費	**503,756**		
合計	**874,756**		

前期繰越金分	**￥449,756**		
内訳 南都銀行	**￥125,687**	南都定期	**￥290,199**
ゆうちょ 銀行	**￥33,870**		

令和6年度　組 織

理　事　　（敬称は略・アイウエオ順）

明政文男　荒川成子　荒川信彦　石野由紀子　魚野 久江　打田照子
岡　典子　北崎 光一　**北島　忠**　小島　順　相良哲美　佐川道夫
鈴木佐知子　武山 完子　谷口三枝子　中嶋一樹　日比野 豊　真中礼子
松下 育夫　**松村 幸子**　柳本博文　渡辺 直子

組織分担

顧　問　明政文男
会　長　**日比野 豊**
副会長　佐川道夫　柳本博文
事務局　岡　典子　荒川信彦
会　計　石野由紀子
監　事　打田照子　谷口三枝子
広報部　部長　佐川道夫
行事部　部長　柳本博文

部員及び配布委員

広報部　佐川道夫　明政文男　松下 育夫　岡　典子　松尾　匡
（層富編集）杉田敏江　谷口三枝子　日比野 豊

行事部　柳本博文　北島　忠　荒川信彦　鈴木佐知子
中嶋一樹　（その他理事 全員協力）

配布部　石野由紀子　魚野 久江　荒川成子　武山 完子　谷口三枝子
真中礼子　渡辺直子　北崎 光一　相良 哲美　松村 幸子

配布委員

神功地区　（谷口三枝子）
ｶﾞｰﾃﾞﾝﾊｳｽ 小山　繁　4丁目　柳本恵子
2丁目　永瀬善子　5丁目　西脇岑子
3丁目　谷口三枝子

右京地区　（熊本悦子）
第2団地　岡田君江　辻本典子
右京団地　中嶋幸子
3丁目　山本喜代美　熊本悦子　村岡敏子　森　礼子
4丁目　熊本悦子
5丁目　真中礼子

朱雀地区　（吉田克治）
1丁目　赤堀律子
2丁目　打田照子
3丁目　杉山幸平
駅前団地　榊原厚子
4丁目　赤井　博
5丁目　鷲尾牧子　岡　典子
6丁目　大久保里美
第1住宅　西村好子
第2住宅　江田法子

左京地区　（相良哲美）
1丁目　杉田敏子
2丁目　福島英子
3丁目　中野美恵子
4丁目　安藤英彦

相楽台地区
6･7丁目　富江八重　松村 幸子
2･5･8･9丁目　森崎 恵子　宮城美佐捕

兜台地区
2丁目　魚野 久江
3・4丁目　川崎泰子
1・5丁目　荒川 成子

桜ヶ丘地区
1丁目　関山志ず江

議案１：「層富」紙面サイズ変更に関する提案

概要: 会員の皆様の中には高齢化に伴い視力の低下を抱える方もいらっしゃることを考慮し、
機関誌の紙面サイズを A5 から A4 に変更し、また使用フォントのサイズも大きく変更する提案です。
これにより、会員の皆様がより快適に機関誌をお読みいただけるよう、読みやすさを向上させることを
目指しています。なお、この変更に伴う機関誌発行コストは、ほとんど変更がないことをご報告いたします。

提案内容:

機関誌層富の紙面サイズと使用フォントを拡大し、より読みやすい形式に改善することを提案いたします。

議案２：協会会費支払い方法の変更に関する提案

概要: 郵便振替を利用した会費の支払い者が減少しており、会計事務の煩雑さや軽減を図り、
また協会経費を抑えるために郵便振替支払い方法を廃止する提案です。今後は、講座での支払い
と南都銀行への振込みの２つの方法で会費の支払いをお願いいたします。

提案内容:

郵便振替支払いの利用者が減少しており、会計事務の煩雑さを軽減するため、
会費の郵便振替支払い廃止を提案いたします。

以上のご審議およびご採決をお願いいたします。

2024 年度　講座・同好会一覧

2024.4.1　現在

	定期講座・同好会	講師・リーダ	世話人	曜　日	時　間	予定会場
1	飛鳥学講座	木下 正史	中嶋　一樹 090-8989-1125	第１水曜	10：00～11：30	北部会館３階多目的室１
2	源氏物語を読む会	舩津　喜美子	北崎　光一 090-2044-4901	第１・３土曜	10：00～11：30	右京ふれあい会館 or 北福祉センター２階
3	英語講座	森田　安子	佐川　道夫 0742-71-7709	第２・４月曜	初級 9：30～10：35 中級 10：15～11：30	右京ふれあい会館
4	中国語同好会	宿　俊明 北崎　光一	松下　育夫 0742-71-3912	毎木曜	入門 9：00～10：30 応用 10：45～12：00	右京ふれあい会館
5	俳句を樂しむ会	小谷　廣子	相良　哲美 0742-31-3976	第４水曜	13：30～15：30	北福祉センター２階
6	短歌を楽しむ会	自主講座	岡　　典子 090-4289-8140	第２火曜	13：30～16：00	北部会館３階 会議室３
7	わくわくニット	松岡　好子	松村　幸子 090-1136-3632	第１木曜	13：00～16：00	高の原駅前団地集会所
8	絵画・絵手紙の会	日比野　豊	日比野　豊 0742-71-9786	第１・３火曜	9：00～12：00	北福祉センター２階
9	料理を楽しむ会	松村 せつ子	魚野　久江 0744-72-5724	第３木曜	9：30～12：00	平城西公民館
10	歌声サロン	小島　順	北島　忠 0774-51-2064	第２金曜	10：00～11：45	北部会館３階 多目的室１
11	パッチワーク研究会	打田　照子	打田　照子 080-5310-0714	第２・４金曜	13：00～16：00	北福祉センター２階
12	押し花とプリザーブドフラワーを楽しむ会	高橋　かおり	鈴木　佐知子 0742-71-1690	第４水曜	10：00～15：30	右京ふれあい会館
13	折り紙を楽しむ会	熊本　悦 子	谷口　三枝子 0742-71-6178	第２火曜	10：00～15：00	右京ふれあい会館
14	ゆっくり歩こう会	小嶋　敬二郎	柳本　博文 0742-71-0813	実施 1.4.5.6 .9.10.11 月	概ね第１日曜	その都度決定
15	萬葉書き方教室	中西　温子	武山　完子 0774-71-5139	第４土曜	13：30～15：00	右京ふれあい会館
16	スマホとパソコンを楽しむ会	松尾　匡	明政　文男 080-3856-2108	第１・３火曜	13：00～15：00	右京ふれあい会館
17	朗読を楽しむ会	辻本　典子	真中　礼子 0742-71-7339	第４金曜	10：30～12：00	北部会館３階会議室
18	電子工作同好会	明政　文男	明政　文男 080-3856-2108	第４火曜	13：00～15：00	北福祉センター２階
19	ウクレレを楽しむ会	荒川　成子	荒川　成子 0774-66-1718	第１第３金曜日	10：00～12：00	アルス高の原小会議室
20	太極拳と歩き方	岡　典子	岡　　典子 090-4289-8140	毎週土曜日	7：30～8：30	朱雀公園時計台の下
21	新古文書に親しむ会	柳本　博文	柳本　博文 0742-71-0813	第２・４水曜	10：00～11：30	北福祉センター２階

高の原文化協会　会則

1983 年 2 月 27 日制定
2023 年 5 月 14 日改訂

第１章　総則

第１条　この協会は高の原文化協会という。
第２条　本協会は、本部(理事会および役員会）とそれに所属して自立的に活動する多数の講座・同好会（以下講座）から構成される。
第３条　本部は会長宅に、本部事務局は事務局長宅におく。

第２章　目的及び事業

第４条　会員の研究・創作発表・知識の交換並びに会員相互間及び他の文化団体との連携、提携の場となり、相互文化に関する進歩普及を図り、地域文化の発展に寄与することを目的とする。
第５条　前条の目的を達成するために、本部は各講座と連帯して次の事業を行う。
1　講演会・研修会・展覧会・発表会・文化講座等の開催。
2　ニュース及び会誌の発行。

3　自治体および自治会等関連団体との連携及び協力。
4　その他。

第３章　会員及び会費

第６条　本協会の目的に賛同し、入会を希望する者は会員となることが出来る。
第７条　1　会費は年 1,500 円とし、希望する複数の講座に入会することが出来る。
ただし、当会費は本部が行う事業に充当され、各講座の活動に伴う経費は、講座毎に別途費用負担を要する。
2　会費は毎年 4 月に、所属するいずれかの講座に納入する。ただし、指定する銀行への口座振込とすることも出来る。
3　年度途中の入会者の年会費は、4～6 月は 1,500 円、7～9 月は 1,000 円、10～12 月は 500 円、翌年１～3 月は無料とする。　ただし、年度途中退会者の年会費の精算は行わない。

第４章　役員及び理事

第８条　1　協会には次の役員を置き、本部の役員会を組織し、総会及び理事会の決定事項に基づき、協会運営全般を執行する。
会長　１名、副会長　２名、事務局（局長１名、局長代理１名、次長１名、会計１名及び部長・副部長若干名）監事　２名。

2　役員は改選期前の理事会において理事の互選により選出し、総会の承認を得る。

3　事務局の組織として組織部、広報部、行事部、配布部等の職位を設ける。

4　各職位の基本的所掌は次のとおり。

(1)　会長は協会を代表し、副会長はこれを補佐する。

(2)　監事は会計監査を行い、総会に報告する。

(3)　事務局長は協会運営を統括し、局長代理並びに次長はこれを補佐する。

(4)　会計は収支管理、出納を行う。

(5)　組織部は組織及び会員入退会の管理を行う。

(6)　広報部はニュース・会誌等の発行を行う。

(7)　配布部は委嘱した配布委員の協力を得て、ニュース・会誌等の配布を行う。

(8)　行事部は文化祭、講演会等を開催する。

第9条　1　理事会は各講座毎に選出された講座を代表する理事と、講座を代表する理事とは別に
改選期前の理事会において次期理事として推薦された理事とで構成する。

2　理事会は役員会に委任する協会運営の基本事項の決定並びに総会に付議する議案の審議を行う。

3　役員以外の理事は、事務局各部のいずれかに所属し会務を分担する。

4　各講座を代表する理事は、毎年4月に所属する会員の会費を集約し、事務局に提出する。

第10条　1　顧問を置くことができる。顧問は理事会の同意を得て会長が委嘱する。

2　顧問は会議に出席して意見を述べることができる。

第11条　1　役員・理事の任期は2年とし、再任は妨げない。

2　任期途中の選解任は、役員は理事会と総会、理事は理事会の承認を要する。

3　補欠より選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

4　役員・理事はその任期満了でも、後任者が就任するまで、その職務を行う。

第5章会議

第12条　1　理事会は必要に応じ、会長が招集する。但し、理事の３分の１以上から、会議の目的を示して請求のあった時は、理事会を招集しなければならない。

2　理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

3　理事会は理事２分の１以上出席しなければ、議事を開き議決することはできない。

4　理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決す。

第13条　役員会は役員で構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。

第 14 条　1 通常総会は毎年１回会長が招集する。
　　2　臨時総会は、理事会が必要と認めた時、会長が招集する。
　　3　総会の議長は総会出席者の中から指名する。
　　4　総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決する。
第 15 条　次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。
　　1　事業報告及び収支決算。
　　2　会計監査報告。
　　3　事業計画及び収支予算
　　4　その他、理事会に於いて必要と認めた事項。

第 6 章会計

第 16 条　経費は会費ならびに後援費、その他の収入による。
第 17 条　会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

第 7 章会則の変更

第 18 条　この会則は、総会の議決を得なければ変更することができない。

第 8 章補足

第 19 条　この会則施行についての細則は、理事会の議決を得て別に定める。
第 20 条　この会則は、平成 27 年 9 月 5 日より施行する。

高の原文化協会の現行会則に補足説明または理事会議事録を追加する

（現行会則抜粋）　第４章　役員及び理事

第８条１　協会には次の役員を置き、本部の役員会を組織し、総会及び理事会の決定事項に基づき、協会運営全般を執行する。会長　１名、副会長　２名、事務局（局長１名、局長代理１名、次長１名、会計１名及び部長・副部長若干名）監事２名。

２　役員は改選期前の理事会において理事の互選により選出し、総会の承認を得る。

３　事務局の組織として組織部、広報部、行事部、配布部等の職位を設ける。

第９条１　理事会は各講座ごとに選出された講座を代表する理事と、講座を代表する理事とは別に改選期前の理事会において次期理事として推薦された理事とで構成する。

２　理事会は役員会に委任する協会運営の基本事項の決定並びに総会に付議する議案の審議を行う。

３　役員以外の理事は、事務局各部のいずれかに所属し会務を分担する。

４　各講座を代表する理事は、毎年４月に所属する会員の会費を集約し、事務局に提出する。

第11条　１　役員・理事の任期は２年とし、再任は妨げない。

２　任期途中の選解任は、役員は理事会と総会、理事は理事会の承認を要する。

（補足説明）役員選出の方法

１、現行役員が２期４年以上継続している場合、役員交代をスムーズに進めるため、次のルールを取り決めて継続的に会の維持を図る。
但し全役員が同時期に交代しては、会運営上に支障が出る恐れがあるため半数前後にとどめる。

２、年度末の理事会において自薦、他薦等で役員候補を出すことになっているが、他薦においては相手の了解を事前に得ておくこと。了解を得て役員に推薦すること。

３、自薦、他薦が出ない場合は、現行役員及び過去に２期以上役員経験のある理事を除外して次のように選出する。

４、理事会において抽選もしくはクジ引きにより交代要員に必要な人数を選出する。選出された理事及び残留役員により、次期役員の役割分担を決める。退任した役員は次期役員を補佐するため、顧問としてサポートする。

５、役割分担は個人の能力・特技等を考慮して決めるのが望ましいが、決められない場合は抽選とする。

６、選出された理事が個人的理由によりどうしても辞退したい場合は、その所属する同好会・講座メンバーから代理を選出する。その場で決められない場合は、後日、同好会・講座の責任において代理役員名を事務局に提出する。

以上、協会の年度末ごとに新旧役員がスムーズにバトンタッチできるように会則の補足説明を追加する。

編集後記

会員の方々のご協力のもと層富 41 号をお届けいたします。

層富創刊以来の A5 サイズ縦書き冊子を倍の A4 横書きも冊子に致しました。これも、昨年会員数減少により層富作成費用の削減を目的にインターネット経由の印刷を行い一昨年の半額までに削減できました。今年は編集の簡素化を目指し A4 横書きにしました。理由は；

- ✧ 編集に使用するソフト「MS WORD」は横書きが得意で編集が容易でした。
- ✧ 記念講演の原稿も A4 横書きが多くアラビア数字を漢数字に変換する手間が省ける。
- ✧ 掲載する文化祭のプログラム・総会の議案等は A4 サイズの横書きで、A5 サイズに編集するのは手間がかかり過ぎる。
- ✧ パソコン・カタログ・自治会連絡書等日常見るものは横書きであり、横書きの層富でも違和感なく読める。
- ✧ A4 サイズに大きくするに伴い、フォントも 11 から 12 に大きくし読み易くできる。

等々です。

A4 横書きとしましたが、グループ便り・寄稿文は横 2 段組とし目の横移動を少なくし読み易くしました。 投稿された短歌・俳句は当該グループよりの要望で縦書きとしました。

A4 横書き最初の試みであり、改善点をご指摘頂き次号に反映していきたいと思います。

文責　佐川道夫

【編集】　層富　編集部

日比野豊、明政文男、岡 典子、谷口三枝子

杉田敏江、柳本博文、佐川道夫

高の原文化協会ホームページのQRコード

URLは　https://takanohara-bunka.com

【発行】　高の原文化協会

会長　日比野　豊

本部　〒631-0804　奈良市神功３丁目９－１１

【印刷】　プリントパック社